

- 第5層 茶褐色土である。(色調は4層より明るい。軟質である。炭化物を若干量含有する。)
第6層 黄褐色土である。(暗い色調である。粘性を有す。)
第7層 茶褐色土である。(5層中に黄褐色土のブロックを含有する。)
第8層 茶褐色土である。(5層より色調は明るい。黄褐色土のブロックを班点状に含有する。)
遺物の出土は少ない。土器はいずれも小破片であった。土壤の時期は諸磯b式期である。

3号土壤 (第34図)

D・E-25グリッドに位置する。古墳周溝内で検出され、11号土壤と隣接する。形態は不整橢円形である。規模は長軸が100cm、短軸は70cmを測る。壁は若干傾斜を備える。墳底は平坦である。覆土は軟質な茶褐色土であった。土壤内からは胴部大半を欠失する深鉢が、口縁を底面に接し倒立した状態で検出された。この状況から墓壙的な性格を備えるものである。土壤の時期は諸磯b式期である。

4号土壤 (第34図)

- C-23-24グリッドに位置する。形態はほぼ円形である。径は120cmを測る。壁は傾斜が強く磨鉢状となっている。深土は35cmを測る。底面は東側が若干深くなる。覆土を説明する。
第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を有す。炭化物を含む。)
第2層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物を含んでいる。)
第3層 茶褐色土である。(色調は2層より若干明るい。)

土壤内からは2個体の深鉢土器が底面に接して押し潰された状態で検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

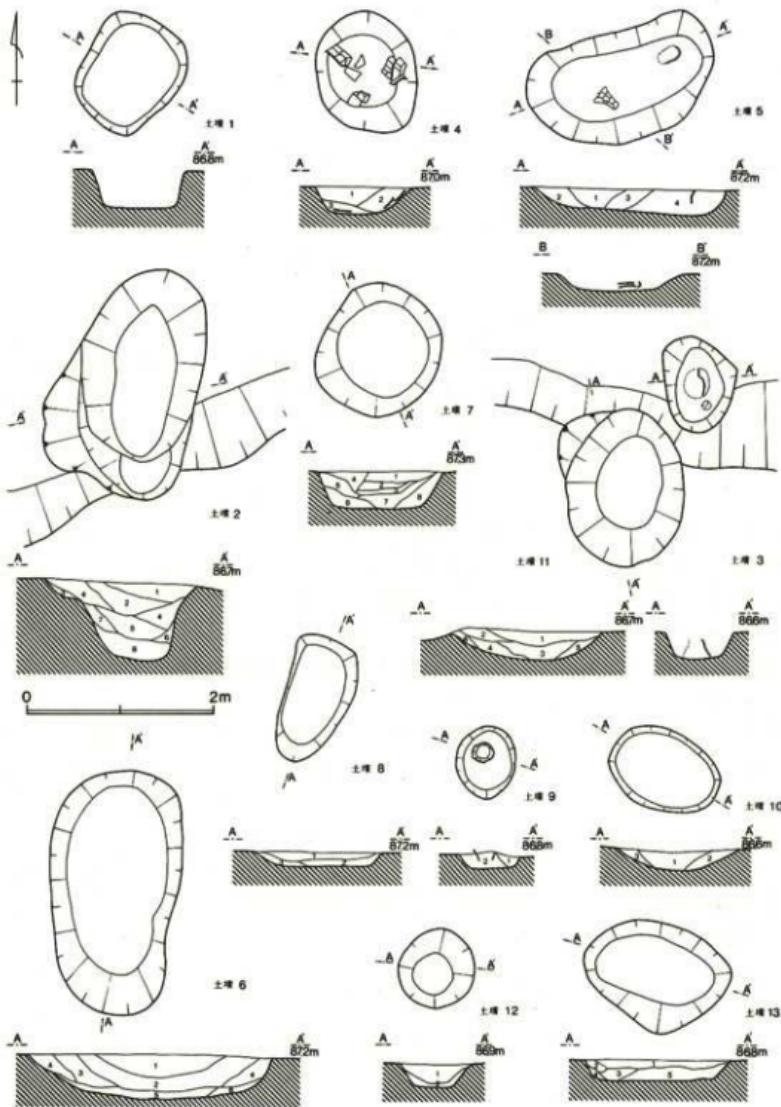
5号土壤 (第34図)

- C-22グリッドに位置する。6~8号土壤と隣接する。形態は橢円形を呈する。長軸は210cm、短軸は120cmを測る。壁は傾斜が強い。深土は30cmである。底面は東に向って若干深くなっている。
第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。炭化物、赤色スコリア粒を含有する。)
第2層 暗褐色土である。(1層より色調は若干明るい。黄褐色土のブロックを含有する。)
第3層 暗褐色土である。(1層より色調は暗い。粘性を有す。炭化物を含有する。)
第4層 暗褐色土である。(3層より色調は暗い。粘性に富む。炭化物を含有する。)

遺物の出土は西から底面に接して深鉢が押し潰された状態と、西側から口縁と胴部を欠失する深鉢が覆土上層から検出されたが、この土器の半分が盗難を受けた。土壤の時期は諸磯b式期である。

6号土壤 (第34図)

- C-22グリッドに位置する。形態は橢円形を呈する。規模は長軸が210cm、短軸は140cmを測る。深さは45cmである。壁は傾斜が強く磨鉢状となっている。底面は平坦である。覆土を説明する。
第1層 茶褐色である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物を若干量含んでいる。)
第2層 茶褐色土である。(1層より色調は明るい。粘性に富む。炭化物、赤色スコリア粒含有。)
第3層 茶褐色土である。(2層中に若干量の黄褐色土のブロックを含有する。)
第4層 茶褐色土である。(黄褐色土のブロックの含有量を増す。)
第5層 黄褐色土である。(色調は暗い。)



第34図 1 ~ 13号土壤(1/60)

第6層 黄褐色土である。(5層より色調は明るい。粘性を有す。若干の炭化物を含有する。)

遺物の出土は、土器の小破片が僅かに検出された。時期は出土土器から諸磯b式期である。

7号土壙 (第34図)

C-22グリッドに位置する。形態は程円形を呈す。径は140cmを測る。壁は傾斜を示す。深さは40cmを深る。底面は平担である。覆土を説明する。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性に富む。炭化物、黄褐色土粒子を含有。)

第2層 暗褐色土である。Tel 1層より色調は明るい。)

第3層 暗褐色土である。(2層中に茶褐色土のブロックを若干含んでいる。)

第4層 黒褐色土である。(色調は明るい。粘性を有す。炭化物を含む。)

第5層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性を有す。炭化物を若干量含有する。)

第6層 茶褐色土である。(第5層中に黄褐色土のブロックを含有する。)

第7層 暗褐色土である。(3層に近似する。茶褐色土のブロックの含有が少ない。炭化物含有。)

第8層 黄褐色土である。(暗い色調である。粘性が有る。暗褐色土のブロックを若干含有する。)

遺物の出土は、底面から少し浮いた状態で小型土器と深鉢底部が検出された。土壙の時期は出土土器から諸磯b式期である。

8号土壙 (第34図)

C22グリッドに位置する。形態は不整橢円形である。規模は長軸が1.4m、短軸50cmを測る。深さは15cmと浅い。底面は平担である。覆土を説明する。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。軟質である。炭化物を含有する。)

第2層 茶褐色土である。(暗い色調である。軟質である。炭化物、黄褐色土粒子を含有する。)

第3層 黄褐色土である。(軟質である。茶褐色土のブロックを含有する。)

遺物は土器片が僅かに出土した。土壙の時期は出土土器から諸磯a式期である。

9号土壙 (第34図)

D-22グリッドに位置する。古墳周溝内で検出された。形態は円形である。径は80cmである。壁は垂直に近い。深さは確認面から20cmである。底面は西側が深くなっている。覆土を説明する。

第1層 黑褐色土である。(軟質な土である。炭化物、赤色スコリア粒を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(軟質である。炭化物を含有する。)

土壙の中央部からは、胴部上半から下を欠失する深鉢が底面より浮いて、正位の状態で検出された。土壙の時期は出土土器から諸磯b式期である。

10号土壙 (第34図)

C-30グリッドに位置する。古墳周溝内で検出された。形態は橢円形を呈す。規模は長軸が120cm、短軸が80cmを測る。皿状を呈して深さは20cmである。覆土を説明する。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物、赤色スコリアを含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層より明るい色調である。他は同一である。)

第3層 茶褐色土である。(暗い色調である。粘性を有す。炭化物を含んでいる。)

遺物は土器片が僅かに出土した。土壙の時期は出土土器から諸磯b式期である。

11号土壤 (第34図)

D-26グリッドに位置する。古墳周溝と北側で重複している。形態は楕円形を呈す。規模は長軸が170cm、短軸では130cmを測る。断面形態は磨鉢状である。底面は平坦となっている。

第1層 暗褐色土である。(粘性に富む。黄褐色土粒子、炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層より明るい色調、含有物は同一である。)

第3層 暗褐色土である。(暗い色調である。含有物は少ない。)

第4層 暗褐色土である。(3層中に若干量の黄褐色土のブロックを含有する。)

第5層 暗褐色土である。(4層に近似する。)

第6層 黄褐色土である。(粘性に富む。若干量の炭化物を含有する。)

遺物は土器の小砂片が僅かに検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期である。

12号土壤 (第34図)

E-27グリッドに位置する。形態は円形である。径は85cmを測る。深さは35cmである。底面は平坦であった。覆土は2層に分かれる。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性に富む。炭化物を僅かに含有する。)

第2層 茶褐色土である。(暗い色調である。粘性を備える。炭化物を含有する。)

遺物は土器の小破片が数点検出された。土壤の時期は諸磯b式期である。

13号土壤 (第34図)

E-26グリッドに位置する。形態は不整楕円形である。長軸は1.6m、短軸は1.1mを測る。深さは20cmで底面は平坦である。覆土を説明する。

第1層 暗褐色土である。(軟質である。炭化物を含有する。)

第2層 黄褐色土である。(ブロックで1層。)

第3層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。黄褐色土粒子、炭化物を含有する。)

第4層 黄褐色土である。(2層より色調が明るい。)

第5層 茶褐色土である。(3層より色調は明るい。炭化物、黄褐色土の細かいブロックを含有。)

遺物は土器片が僅かに検出された。出土土器から時期は諸磯b式期である。

14号土壤 (第35図)

E-26グリッドに位置する。形態は円形である。径は1.1mである。壁は傾斜を備え底径は小さく、磨鉢状を呈す。底面は平坦である、覆土は3層に分かれる。

第1層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物、赤色スコリア粒を含有する。)

第2層 茶褐色土である。(1層より色調は明るい。含有物は同一である。)

第3層 黄褐色土である。(明るい色調である。)

遺物は覆土の上層から土器の小破片が僅かに出土した。土器は浮縁文を備えている。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

15号土壤 (第35図)

E-26グリッドに位置する。17号土壤と重複して切られている。平面形態は方形となるが、テラスを設けて楕円形に落ち込んでいる。壁は垂直に近い立ち上がりである。深さは確認面から50cmを

測る。底面は平坦であった。覆土は上層で小礫混じりの黒色土であり、下層は黒味の強い暗褐色であった。炭化物の含有量が多量であった。遺物は暗褐色土から多量に検出された。土器は折り重なった状態であり、石器、礫も出土量が多い。土器の出土状況から自然流入ではなく、一括廃棄された推測が可能である。土壇の時期は出土土器から諸磯b式期である。

16号土壇 (第35図)

D-22グリッドに位置する。古墳周溝と重複する。形態は不整椭円形である。長軸1.8cm、短軸110cmを測る。壁は傾斜をもって立ち上がる。底面は平坦である。覆土は6層に分けられる。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層より色調は暗い。他は同一である。)

第3層 暗褐色土である。(2層中に黄褐色土のブロックを若干量含んでいる。)

第4層 黄褐色土である。(暗い色調である。)

第5層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。若干量の黄褐色土のブロックを含有。)

遺物の出土は少ない。覆土の上面から土器の小破片が出土した。土壇の時期は諸磯b式期である。

17号土壇 (第35図)

E-26グリッドに位置する。15号土壇と重複する。形態は隅丸の方形である。深さは10cmと浅い。遺物は土器の小破片が検出された。土壇の時期は諸磯b式期である。

18号土壇 (第35図)

F-32グリッドに位置する。形態は円形である。径は80cmを測る。掘り込みは約15cmと浅い。底径は小さく皿状を呈す断面形態を有す。覆土は2層に分けられる。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。小さな黄褐色土のブロックと炭化物を含有する。)

第2層 茶褐色土である。(色調は明るい。炭化物を含有する。粘性を備える。)

遺物の出土は少ない。土壇の時期は出土土器から諸磯b式期である。

19号土壇 (第35図)

E-32グリッドに位置する。形態は円形である。径は120cmを測る。深さは20mで磨鉢状の断面形態を備える。覆土は4層に分かれる。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性に富んでいる。炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層より色調は暗い。粘性に富む。炭化物の含有が多い。)

第3層 黄褐色土である。(色調は暗い。炭化物を若干含有する。)

第4層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性が有る。炭化物、黄褐色土粒子を含有する。)

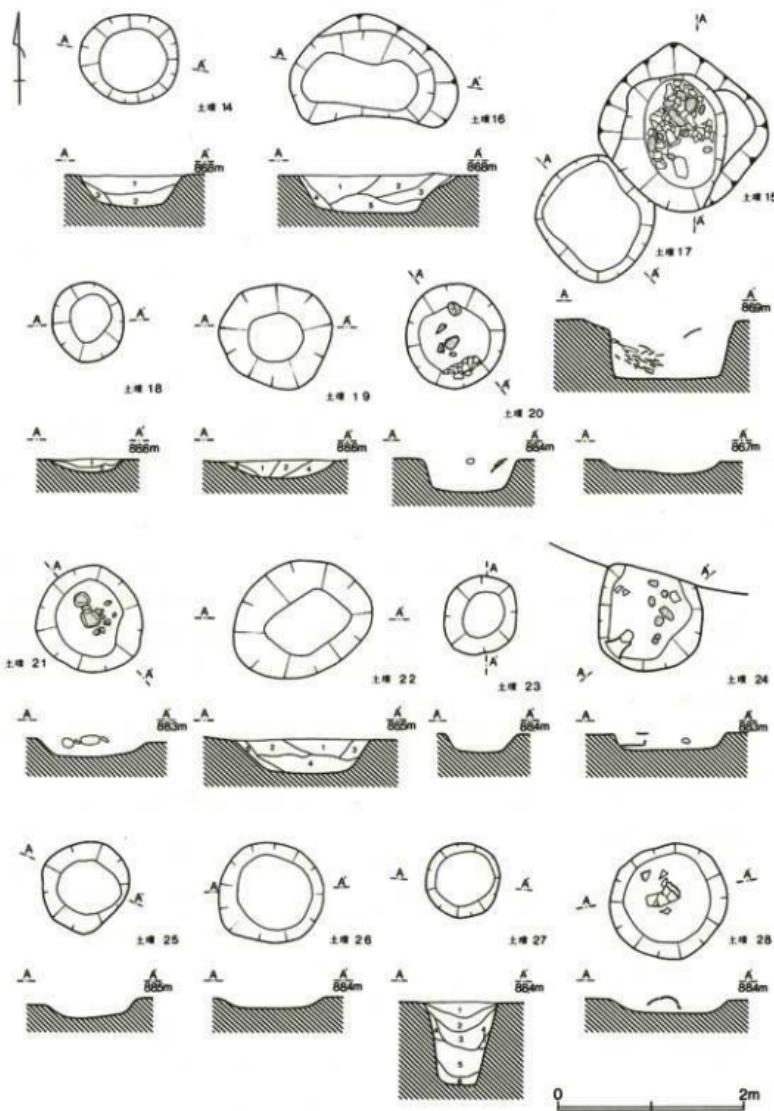
土壇内からは土器片多数と礫が検出された。土壇の時期は出土土器から諸磯b式期である。

20号土壇 (第35図)

F-32グリッドに位置する。形態は円形である。径は110cmを測る。壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦である。覆土は粘性に富んだ暗褐色土であり、炭化物を含有していた。土壇内からは、土器が覆土上面から出土した。礫も数点含まれていた。土壇の時期は出土土器から諸磯b式期である。

21号土壇 (第35図)

E・F-34グリッドにかけて位置する。集石を伴なう土壇である。形態は円形であり径は110cmを



第35図 14-28号土壤(1/60)

測る。深さは10mである。底面は平坦であった。覆土は軟質な茶褐色土であった。集石は北に寄つて大型の礫と小砾を用いて、浮いた状態で検出された。土器は小破片が出土した。土壌の時期は諸磯b式期である。

22号土壌（第35図）

E-33グリッドに位置する。形態は橢円形を呈す。長軸は150cm、短軸は110cmを測る。底径は小さく磨鉢状を呈している。底面は平坦である。覆土は5層に分けられる。

第1層 暗褐色土である。（軟質である。炭化物の含有が多い。）

第2層 茶褐色土である。（色調は明るい。粘性を有す。赤色スコリア粒、炭化物を含有する。）

第3層 茶褐色土である。（2層より暗い色調である。赤色スコリア粒、炭化物を含有する。）

第4層 茶褐色土である。（黄褐色土のブロック、炭化物を含有する。粘性が有る。）

第5層 黄褐色土である。

遺物は少ない。土器は小破片であり、浮線文を施すものが出土している。土壌の時期は諸磯b式期である。

23号土壌（第35図）

E-F-34グリッドにかけて位置する。形態は円形である。径は90cmを測る。壁は傾斜が強く磨鉢状の断面形である。深さは確認面から20cmを測る。底面は平坦である。遺物は、土器の小破片が検出された。土壌の時期は出土土器から諸磯b式期である。

24号土壌（第35図）

F-33グリッドに位置する。北側は古墳周溝に切られ欠失する。形態は橢円形と思われる。短軸の長さは110cmである。壁の立ち上がりは直線的であり、深さは15cmを測る。底面は西側で深くなる。覆土は、茶褐色であり炭化物を含んでいた。土壌内からは、小砾と共に深鉢土器が南西部から底面より若干浮いた状態で検出された。土壌の時期は出土土器から諸磯b式期である。

25号土壌（第35図）

F-34グリッドに位置する。古墳周溝と接する。形態はほぼ円形を呈する。径は95cmを測る。深さは20cmである。壁は傾斜が強い。底面は平坦である。覆土は粘性のある暗褐色土であり、炭化物を含んでいた。出土遺物は土器の小破片が出土した。土壌の時期は諸磯b式期である。

26号土壌（第35図）

F-34グリッドに位置する。形態はほぼ円形を呈す。径は115mで深さは10cmと浅いもので、壁の傾斜は強く皿状の断面形を示している。底面は平坦である。覆土は暗い色調の茶褐色土であった。出土遺物は土器の小破片が数点検出され、浮線文の土器であった。土壌の時期は諸磯b式期。

27号土壌（第35図）

F-34グリッドに位置する。形態は円形を呈す。径は80cmである。深さは90cmを測り円筒状の断面形を備える。底面は平坦である。覆土を説明する。

第1層 暗褐色土である。（暗い色調である。軟質である。炭化物を含有する。）

第2層 暗褐色土である。（1層より色調は暗い。炭化物、赤色スコリア粒を有する。）

第3層 暗褐色土である。（色調は明るい。粘性に富む。黄褐色土のブロック、炭化物を含有。）

第4層 茶褐色土である。(黄褐色土のブロックを含む。)

第5層 黒色土である。(明るい色調である。炭化物の含有が多い。粘性に富んでいる。)

第6層 黒色土である。(5層より色調は明るい。軟質でボロボロしている。炭化物含有少ない。)

遺物の出土は少ない。土器は5層中から検出された。土壌の時期は諸磯b式期である。

28号土壌 (第35図)

F-35グリッドに位置する。形態は平形であり径は1.3mを測る。深さは15cmで皿状の断面形である。覆土は明るい暗褐色土であり多量の炭化物を含有していた。遺物は土壌中央部から深鉢土器の1/4程の破片が若干底面より浮いた状態で検出された。土壌の時期は出土土器から諸磯b式期である。

29号土壌 (第36図)

F-35グリッドに位置する。形態は隅丸の方形である。一辺は80cmを測る。壁の立ち上がりは15cmである。底面は平坦である。覆土は暗褐色土であった。遺物は土器が25片出土した。土壌の時期は出土土器から諸磯b式期である。

30号土壌 (第36図)

G-36グリッドである。北側の半分は調査区外にはいる。形態は楕円形と思われる。短軸は180cmを測る。深さは確認面から10cmと浅く、断面形は皿状を呈す。覆土を説明する。

第1層 表土である。

第2層 茶褐色土である。(軟質でボロボロしている。表土のブロックを含有する。)

第3層 黑褐色土である。(粘性を備えている。茶褐色土のブロックを若干含有する。)

第4層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性がある。炭化物を含有する。)

第5層 黑褐色土である。(4層より色調は暗い。粘性がある。炭化物を含有する。)

第6層 暗褐色土である。(5層より色調は暗い。赤色スコリア粒、炭化物を含有する。)

第17層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。黄褐色土の小さいブロックを含む。)

第8層 黄褐色土である。(粘性に富む。若干の炭化物を含有する。)

遺物の出土は爪形文を施す小破片の土器がわずかに検出された。土壌の時期は諸磯b式期である。

31号土壌 (第36図)

G-36グリッドで検出された。北側半分は調査区外にはいる。形態は円形と思われ、径は120cmを測る。深さは確認面から25cmで壁の傾斜が強く磨鉢状の断面形を備える。底面は平坦である。

第1層 表土である。

第2層 茶褐色土である。(軟質である。)

第3層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を有す。炭化物を若干量含んでいる。)

第4層 暗褐色土である。(3層より色調は暗い。粘性に富む。炭化物の含有が多い。)

第5層 茶褐色土である。(明るい色調である。粘性を備える。)

第6層 茶褐色土である。(5層中に黄褐色土のブロックを含有する。)

第7層 暗褐色土である。(色調は3層より若干明るい。粘性を備えている。)

第8層 茶褐色土である。(5層より色調は明るい。黄褐色土の小さいブロックを班点状に含有。)

土壌内からは覆土3層より細長い礫と小礫が含まれていた。土器の出土は3、4層中から多く検出された。土壌の時期は諸磯b式期である。

32号土壌（第36図）

E-32グリッドに位置する。形態は円形を呈し径は115cmである。深さは確認面から20cmを測る。底面は小さく、壁の傾斜は強い。断面形はボール状を呈している。覆土は5層に分けられる。

第1層 黒色土である。(ボソボソした軟質である。黄褐色土のブロック、炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性は有る。炭化物を含有する。)

第3層 茶褐色土である。(色調は明るい。)

第4層 茶褐色土である。(黄褐色土のブロックを含む。)

第5層 茶褐色土である。(4層より明るい色調である。黄褐色土のブロックの含有が多い。)

出土遺物は浮線文を施す土器の小破片が出土した。時期は出土土器から諸磯b式期である。

33号土壌（第36図）

F-37グリッドに位置する。形態は不整橢円形である。長軸は140cm、短軸は110cmを測る。深さは確認面から25cmを測る。壁の立ち上がりは傾斜を備える。底面は西に向って深くなる。

第1層 暗褐色土である。(軟質である。若干の焼土と炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層より色調は明るい。軟質である。)

第3層 暗褐色土である。(色調は1層より暗い。若干粘性を帯びる。炭化物微量に含有。)

第4層 暗褐色土である。(3層より色調が暗い。粘性を帯びる。)

第5層 茶褐色土である。(暗い色調である。粘性を備える。)

第6層 黄褐色土である。(汚れて暗い色調である。粘性を備える。)

第7層 黄褐色土である。(6層に近似する。)

第8層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。黄褐色土の小さいブロックを含有。)

第9層 黄褐色土である。(6、7層より明るい。粘性に富む。)

土壌の時期は出土土器から諸磯b式期である。

34号土壌（第36図）

F・G-38・39グリッドにかけて位置する。形態は円形である。径は130cmを測る。深さは40cmである。底面は平坦である。覆土を説明する。

第1層 暗褐色土である。(明るい色調、粘性に富む。炭化物、赤色スコリア粒を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層より暗い色調。粘性に富む。2~5mmの炭化物を多量に含有。)

第3層 暗褐色土である。(1層より色調は明るい。炭化物の含有は微量である。)

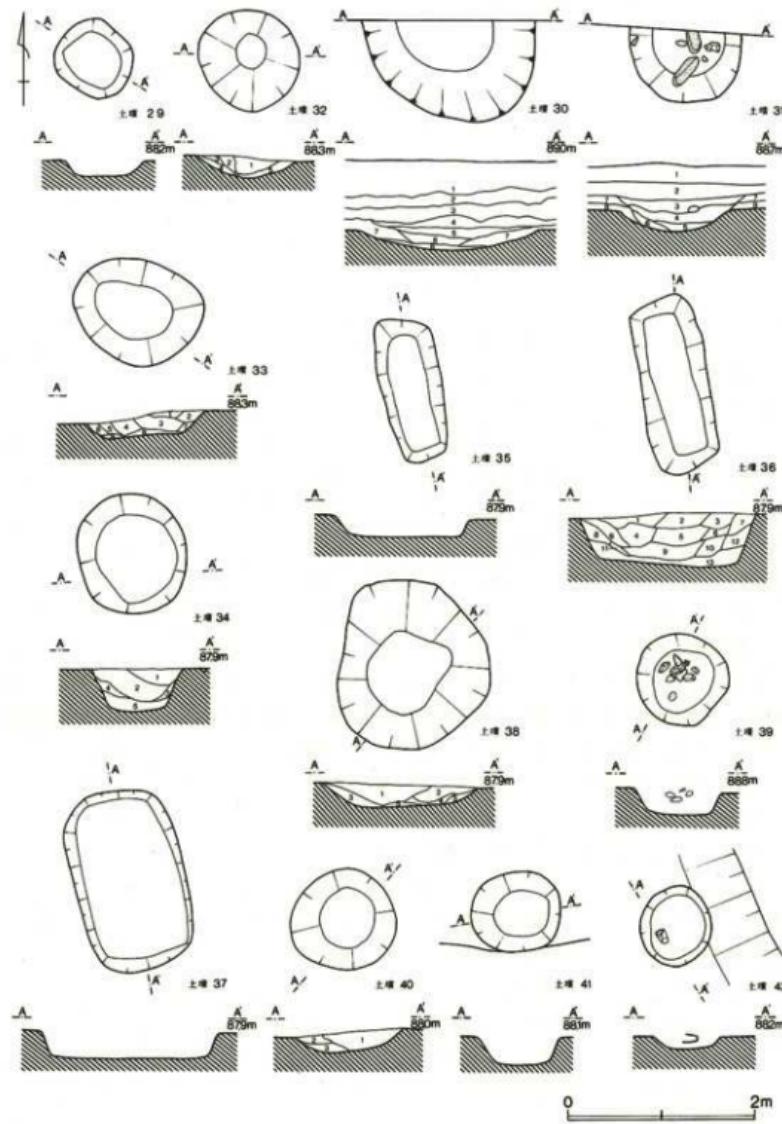
第4層 茶褐色土である。(黄褐色土のブロックを含有する。炭化物は含んでない。)

第5層 茶褐色土である。(4層より明るい。締まりに欠ける。黄褐色土のブロックを含有する。)

土壌内からは爪形文を施す小破片の土器が出土した。土壌の時期は出土土器から諸磯b式期。

35号土壌（第36図）

F-39グリッドに位置する。形態は長方形である。長軸は150cm、短軸は70cmである。深さは20cmを測る。底面は平坦である。覆土は浮石を含んで果粒状となる暗褐色土であった。壙内からは遺物



第36図 29~42号土壤(1/60)

は一切検出されていない。時期は近世のものと思われる。

36号土壌（第36図）

F-39グリッドに位置する。35号土壌とは併列して検出された。形態は長方形であり35号土壌と共に通する平面形である。長軸は190cm、短軸は70cmを測る。壁の立ち上がりは直線的で確認面から55cmである。底面は南側で深く傾斜している。覆土は13層に分かれ、黄褐色土のブロックを含む。

第1層 暗褐色土である。（明るい色調、浮石を含む。ボロボロしている。）

第2層 暗褐色土である。（1層より暗い色調、浮石を含む。ボロボロして締まりに欠ける。）

第3層 暗褐色土である。（2層より色調は暗い。浮石を含む。締まりに欠ける。）

第4層 黒褐色土である。（黒味が強い。固く締っている。大粒の黄褐色土のブロックを含有。）

第5層 暗褐色土である。（色調は暗い。固く締っている。小粒の黄褐色土のブロックを含有。）

第6層 暗褐色土である。（5層より明るい。小粒のブロックを含む。固く締っている。）

第7層 黄褐色土である。（明るい粘性の有るブロックである。）

第8層 黄褐色土である。（7層と同一層である。）

第9層 黑褐色土である。（4層より黒味が強い。黄褐色土のブロック含有が多い。固く締まる。）

第10層 黑褐色土である。（色調は4層に近似する。黄褐色土を含まない。）

第11層 暗褐色土である。（粘性に富んだブロックである。）

第12層 黄褐色土である。（暗褐色土のブロックを含有する。）

第13層 暗褐色土である。（暗い色調、固く締る。黒色土のブロックを含有する。）

土壌からは遺物は出土していない。時期は近世と思われる。

37号土壌（第36図）

F・G-39グリッドにかけて位置する。36号土壌と隣接する。形態は隅丸の方形である。長軸は290cm、短軸は120cmを測る。深さは20cmで壁は垂直である。底面は平坦である。覆土は黄褐色土のブロックを含んだ黒褐色土で固く締ったものであった。遺物は出土していない。時期は近世と思われ、35~37号土壌は配置、覆土の共通性から時間的に同時性を備え、性格も同様と思われる。

38号土壌（第36図）

F-40グリッドに位置する。形態は不整楕円形である。長径は170cm、短軸は150cmである。掘り込みは20cmである。底径は小さく磨鉢状の断面形となる。覆土は5層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。（明るい色調、粘性に富んでいる。炭化物、赤色スコリア粒を含有。）

第2層 暗褐色土である。（1層より色調は明るい。含有物は同一。）

第3層 黄褐色土である。（暗い色調である。粘性が有る。若干量の炭化物を含有。）

第4層 暗褐色土である。（黄褐色土の小さいブロックを班点状に含んでいる。）

第5層 黄褐色土である。（ブロックで一層。）

遺物の出土は覆土の上層で検出された。土壌の時期は出土土器から諸磯a式期である。

39号土壌（第36図）

F-G40グリッドに位置する。形態はほぼ円形を呈す。径は145cmを測る。深さは20cmである。覆土は、暗褐色土を基本として、壁周辺では汚れた黄褐色土であった。遺物の出土は覆土上層の中央部

から砾と共に深鉢土器の1/2程が検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期である。

40号土壤 (第36図)

E-40グリッドに位置する。形態は楕円形を呈す。長軸は110cm、短軸は100cmを測る。深さは20cmで断面形はポール状を呈している。覆土は3層に分けられる。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富んでいる。)

第2層 茶褐色土である。(細かい黄褐色土のブロックを含有。)

第3層 黄褐色土である。(粘性のある黄褐色土のブロックである。)

遺物は第1層から土器が数点出土した。時期は諸磯a式期である。

41号土壤 (第36図)

F-37グリッドに位置する。古墳周溝と南側で重複する。形態は楕円形である。長軸は90cm、短軸は85cmである。深さは30cmである。底面は平坦であった。遺物は覆土の上面から土器が数点出土した。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期である。

42号土壤 (第36図)

E-39グリッドに位置する。古墳周溝内から検出された。形態はほぼ円形である。径は85cmを測る。深さは確認面から15cmであった。壙底は平坦である。覆土は暗褐色土であった。遺物は若干浮いた状態で西側から小型土器が検出された。土壤の時期は小型深鉢土器から諸磯a式期である。

43号土壤 (第37図)

D-41グリッドに位置する。形態は楕円形である。長軸は80cm、短軸は60cmである。深さは確認面から10cmと浅いものであったが底面は平坦であった。覆土は2層に分かれれる。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物を僅かに含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層より若干明るい。他は近似する。)

遺物は浮線文を施した小破片の土器が出土した。土壤の時期は諸磯b式期である。

44号土壤 (第37図)

D-41グリッドに位置する。形態はほぼ円形である。径は70cmを測る。深さは30cmである。断面形はポール状を呈す。覆土は3層に分かれれる。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。若干量の炭化物を含んでいる。)

第2層 暗褐色土である。(1層中に細かい黄褐色土を含んでいる。)

第3層 黄褐色土である。

覆土の第1層上面から扁平な自然砾が検出されている。遺物は小破片の土器が出土している。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期である。

45号土壤 (第37図)

D-42グリッドに位置する。形態は円形を呈す。径は130cmである。深さは30cmである。

第1層 暗褐色土である。(暗い色調である。粘性を有す。炭化物を含有する。)

第2層 黄褐色土である。(粘性を備えたブロックである。)

第3層 暗褐色土である。(1層より暗い色調。粘性に富む。炭化物を含有する。)

第4層 暗褐色土である。(3層より色調は暗い。粘性が強い。)

第5層 黄褐色土である。(軟質である。)

第6層 搅乱である。

遺物は1、2層から土器の小破片が検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期である。

46号土壤 (第37図)

F-41グリッドに位置する。形態は橢円形を呈する。長軸は130cm、短軸は8cmである。深さは30cmである。底面は一様でない。覆土は4層に分かれれる。

第1層 暗褐色である。(色調は暗い。粘性が強い。若干量の炭化物を含有。)

第3層 暗褐色土である。(1層より明るい色調である。炭化物を含有する。)

第4層 暗褐色土である。(3層より明るい色調である。小さい黄褐色のブロックを含有する。)

遺物は覆土の上面から深鉢の底部が検出された。他は礫と土器の小破片であった。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期である。

47号土壤 (第37図)

F-41グリッドに位置する。形態は不整橢円形であり、南側に括れを備える。長軸は230cmを測る。深さは10cmで底面は凹凸が激しい。覆土は2層に分けられる。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。若干量の炭化物を含んでいる。)

第2層 黄褐色土である。

遺物は土器の小破片が検出された。出土土器から土壤の時期は諸磯a式期と思われる。

48号土壤 (第37図)

F-41グリッドに位置する。47号土壤とは隣接している。形態は不整隅丸方形である。長軸は90cmである。壁は垂直に立ち上がる。深さは100cmを測る。覆土は10層に分けられる。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性に富んでいる。)

第2層 暗褐色土である。(1層中に黄褐色土のブロックを含有する。)

第3層 暗褐色土である。(1層より暗い。粘性に富む。炭化物の含有量が多い。)

第4層 茶褐色土である。(明るい色調、粘性が有る。)

第5層 暗褐色土である。(3層より黒味を増す。炭化物の含有量が多い。)

第6層 茶褐色土である。(4層より色調が明るい。)

第7層 暗褐色土である。(5層より若干明るい。黄褐色土のブロックを少し含有する。)

第8層 暗褐色土である。(7層より明るい色調。黄褐色土のブロックの含有量が多い。)

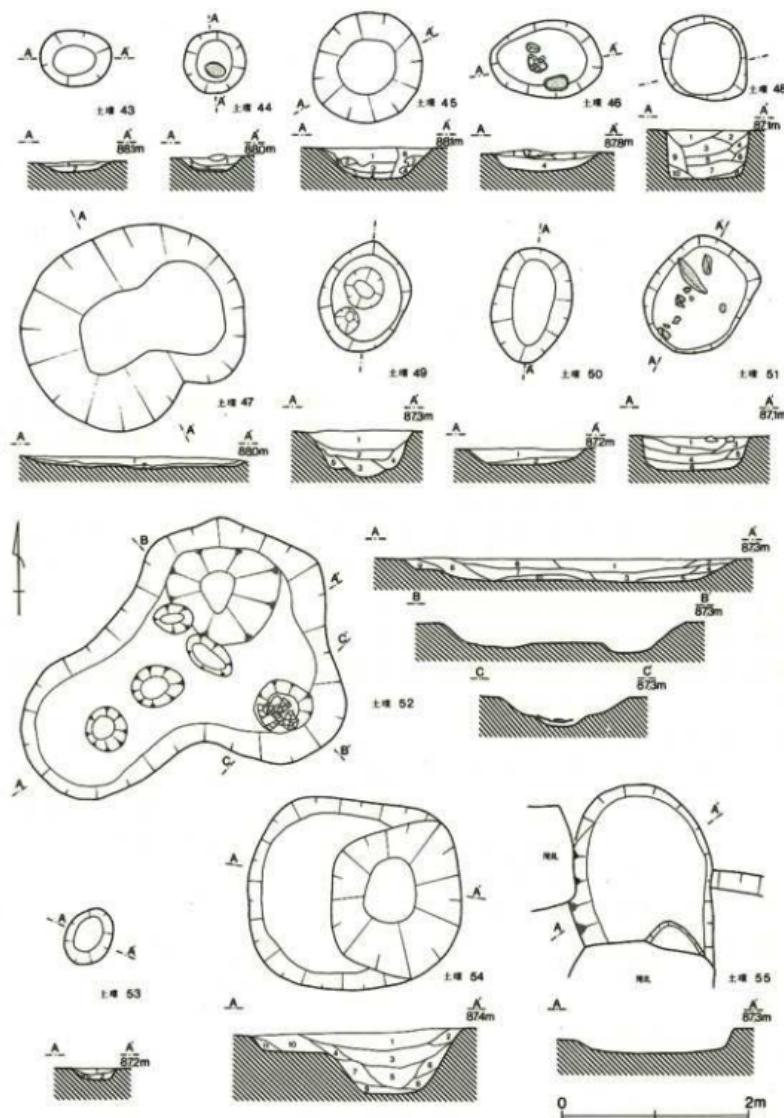
第9層 黄褐色土である。(軟質である。)

第10層 黄褐色土である。(9層より明るい色調である。粘性に富む。)

遺物は土器が多く出土した。他に礫も多い。共に覆土の上層で検出された。出土土器から土壤の時期は諸磯a式期である。

49号土壤 (第37図)

F-43グリッドに位置する。形態は橢円形である。長軸は130cm、短軸は95cmである。底面まで40cmの深さである。底面はピットが2ヶ所検出された。深さは南のものが10cm、北に位置するものが15cmを測る。覆土は5層に分かれれる。



第37圖 43~55号土壤(1/60)

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。町化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層より色調は明るい。他は同一である。)

第3層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性に富む。炭化物の含有が多い。)

第4層 茶褐色土である。(3層より若干明るい。)

第5層 黄褐色土である。(茶褐色土のブロックを含む。)

遺物は小破片の土器が数点出土した、出土土器により土壤の時期は諸磯a式期である。

50号土壤 (第37図)

F-43グリッドに位置する。形態は橢円形を呈している。長軸は130cm、短軸は80cmを測る。壁は傾斜が弱い。深さは確認面から南側で15cm、北壁寄りで10cmである。覆土は2層に分かれれる。

第1層 暗褐色土である。(暗い色調である。粘性に富んでいる。炭化物を多く含有している。)

第2層 暗褐色土である。(1層中に少量の黄褐色土のブロックを含有している。)

遺物は1層中から、浮線文を施した土器の小破片が出土している。土壤の時期は諸磯b式期。

51号土壤 (第37図)

F-41グリッドに位置する。形態は隅丸長方形である。長軸は136cm、短軸は100cmを測る。壁の立ち上がりは垂直に近い。深さは確認面から35cmであり、底面は平坦であった。覆土は6層。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。軟質だが締っている。炭化物を多量に含有している。)

第2層 暗褐色土である。(色調は1層より暗い。炭化物と共に焼土を含んでいる。)

第3層 暗褐色土である。(2層より暗い。粘性を帯びる。炭化物を含有。)

第4層 暗褐色土である。(3層より色調を増す。炭化物の含有が多量である。)

第5層 黄褐色土である。(暗褐色土のブロックを含有する。)

第6層 暗褐色土である。(色調は明るい。上層同様に炭化物の含有量が多い。)

遺物は小破片の土器であったが、1層中からは打製石斧と共に破碎した大型礫が検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期である。

52号土壤 (第37図)

E・F-42グリッドに位置する。45、49号土壤と隣接する。形態は東西方向に長軸をとる不整形である。長軸は370cm、張り出した部分は370cm、短軸は約150cmを各々測る。壁の傾斜は緩かである。底面には4ヶ所にピット状の落みと、北、南側に浅い窓みが検出された。覆土は9層に分かれれる。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。)

第2層 暗褐色土である。(1層より明るい色調である。)

第3層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性に富んでいる。炭化物を若干量含有している。)

第4層 茶褐色土である。(3層中に黄褐色土のブロックを含有している。)

第5層 黄褐色土である。(暗い色調である。)

第6層 暗褐色土である。(黒味が強い。炭化物の含有が多い。)

第7層 暗褐色土である。(6層より暗い色調。粘性が強い。炭化物の含有も6層より増す。)

第8層 暗褐色土である。(6、7層より色調は明るい。)

第9層 黄褐色土である。(明るい色調である。暗褐色土のブロックを含有する。)

覆土内からは遺物の出土は少ないが、南側の張り出し部の底面から、胴部上半を欠失する深鉢土器が、底面に接し潰された状態で検出された。出土土器から土壤の時期は諸磯a式期である。

55号土壤（第37図）

E-41グリッドに位置する。形態は橢円形である。長軸は60cm、短軸は45cmを測る。深さは確認面から10cmであった。覆土は3層である。

第1層 暗褐色土である。（明るい色調である。炭化物を僅かに含んでいる。）

第2層 茶褐色土である。（暗い色調である。）

第3層 黄褐色土である。

出土遺物は土器の小破片が少數検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期と思われる。

54号土壤（第37図）

F-42グリッドに位置する、形態は隅丸の方形である。長軸は240cm、短軸は200cmである。底面から西側で15cm、東側では13cmの深さであった。覆土は11層に分けられる。

第1層 暗褐色土である。（色調は明るい。粘性を有す。少量の炭化物を含有する。）

第2層 黄褐色土である。（暗い色調である。）

第3層 暗褐色土である。（色調は1層より暗い。粘性を増す。炭化物を含有する。）

第4層 茶褐色土である。（色調は明るい。粘性に富んでいる。）

第5層 暗褐色土である。（4層より暗い色調である。炭化物の含有量が多い。）

第6層 黄褐色土である。（暗い色調である。暗褐色土を含有する。）

第7層 茶褐色土である。（4層より暗い。粘性に富んでいる。暗褐色土のブロックを含有する。）

第8層 茶褐色土である。（7層に近似する。）

第9層 茶褐色土である。（7層に近似する色調である。黄褐色土のブロックを班点状に含有。）

第10層 茶褐色土である。（暗い色調である。粘性を備える。若干の炭化物を含有する。）

第11層 茶褐色土である。（10層より色調は明るい。炭化物を含む。）

遺物は土器片が多数出土した。特に3層中から無文の浅鉢が出土した。出土土器から土壤の時期は諸磯a式期である。

55号土壤（第37図）

F-42グリッドに位置する。13号住居跡と重複する。南側は擾乱を受けて欠失する。形態は橢円形と思われる。長軸の長さは不明。短軸は150cmを測る。深さは東側で30cmである。遺物は土器の小破片が数点検出された。出土土器から土壤の時期は諸磯a式期である。

56号土壤（第38図）

E-42グリッドに位置する。25号住居跡と重複して、これを切っている。住居跡の確認段階で覆土との差違が明瞭に判別できた。形態は西側の一辺が膨らむ隅丸方形である。一辺は約90cm程である。深さは確認面から20cmを測る。底面は25号住居跡の床面を5cm程掘り込んで平坦に造られる。

第1層 暗褐色土である。（色調は暗い。粘性を備える。炭化物の含有が多い。）

第2層 暗褐色土である。（1層より若干明るい。炭化物の含有は少ない。）

第3層 暗褐色土である。（2層より明るい色調。粘性は弱い。炭化物は目立たない。）

出土遺物は土器の小破片が検出された。時期は諸磯 b 式期である。

57号土壙（第38図）

G-37グリッドに位置する。41号土壙の南側で検出された。形態は隅丸方形を呈する。一辺は約90cmである。深さは25cmで底面は小さく、断面形は磨鉢状を呈している。覆土は3層に分かれる。

第1層 茶褐色土である。（色調は暗い。粘性を備える。炭化物、赤色スコリア粒を含有する。）

第2層 茶褐色土である。（1層中に細かい黄褐色土の粒子を含んでいる。）

第3層 黄褐色土である。（明るい色調。粘性を備える。）

遺物は浮線文を施した小破片の土器が数点検出された。出土土器から時期は諸磯 b 式期である。

58号土壙（第38図）

F-39グリッドに位置する。11号住居跡内で検出され、東側は埋甕に切られていた。形態はほぼ円形である。径は90cmを測る。深さは住居跡床面から30cmで底面に達する。覆土は6層に分かれた。

第1層 暗褐色土である。（色調は暗い。粘性に富む。炭化物を含有する。）

第2層 暗褐色土である。（1層中に黄褐色土の小さいブロックを班点状に含有する。）

第3層 茶褐色土である。（色調は明るい。粘性を備える。）

第4層 茶褐色土である。（色調は暗い。粘性に富む。炭化物を含有する。）

第5層 茶褐色土である。（4層より色調が暗い。粘性に富む。炭化物の含有量が多い。）

第6層 茶褐色土である。（5層中に黄褐色土のブロックを含有する。）

遺物の出土は土器の小破片が検出された。土壙の時期は諸磯 a 式期である。

59号土壙（第38図）

F-35グリッドに位置する。5号住居跡の南西コーナー部で重複して検出された。形態は不整方形である。軸長は95cmを測る。壁は垂直気味であり、深さは遺構認面から30cmを測る。5号住居跡の床面を5cm程掘り込んでいる。覆土は3層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。（色調は暗い。粘性が弱い。若干量の炭化物を含有する。）

第2層 暗褐色土である。（1層より色調は明るい。小礫を若干含有する。）

第3層 黄褐色土である。（小礫を含んでいる。）

土壙内からは大型の河原石が底面から若干浮いて検出された。この石には使用痕その他の痕跡は見い出せなかった。遺物は検出されていないが、5号住居跡の段階より新しい諸磯 b 式期と思われる。

60号土壙（第38図）

G-40グリッドに位置する。形態は南北に主軸をもった楕円形である。長軸は110cm、短軸は90cmを測る。深さは西側で20cm、東側で30cmとなり傾斜を備えた底面である。覆土は3層から成る。

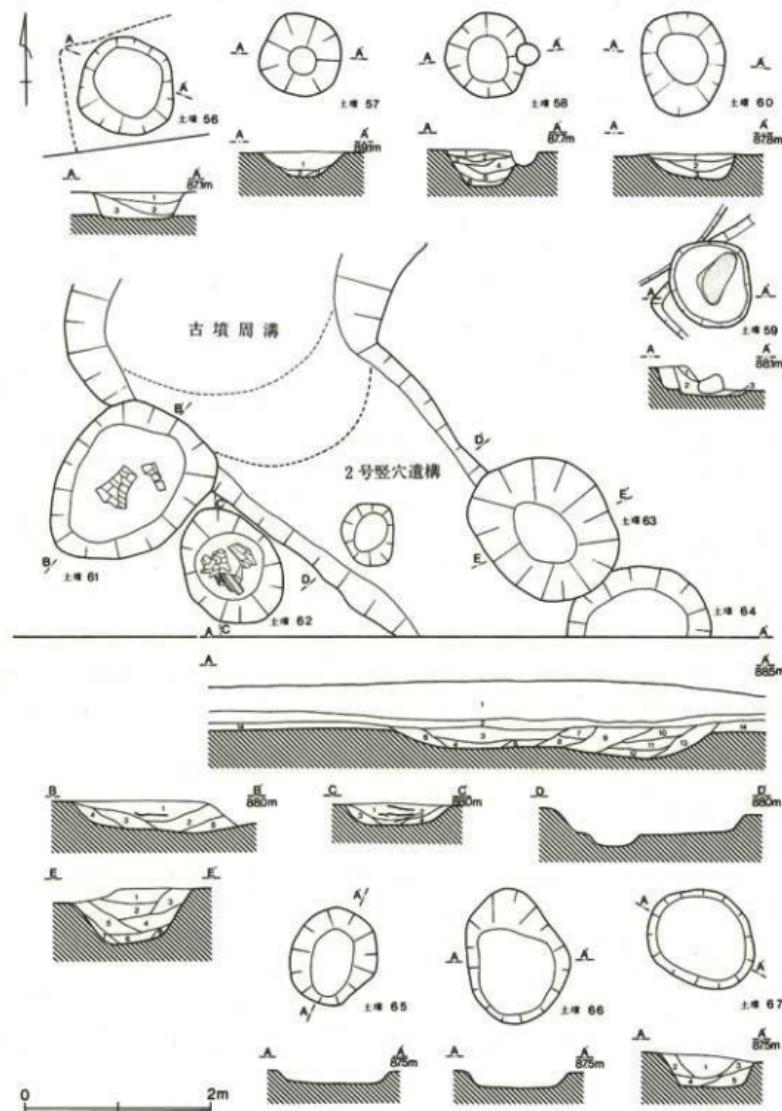
第1層 暗褐色土である。（色調は暗い。固く締っている。炭化物を若干量含んでいる。）

第2層 暗褐色土である。（1層より少し明るい。粘性を備える。炭化物の含有量を増す。）

第3層 暗褐色土である。（2層より明るい。粘性に富んでいる。炭化物は含んでいない。）

遺物の出土は土器片が多数検出された。土壙の時期は出土土器から諸磯 a 式期である。

61号土壙（第38図）



第38図 2号竖穴遺構・56~67号土堆(1/60)

D-34・35グリッドにかけて位置する。形態は不整楕円形を呈す。長軸は195cm、短軸は150cmである。深さは南側で25cm、北側で30cmを測り傾斜を備える底面である。覆土は5層に分かれた。

第1層 黒色土である。(黒味が強い。軟質である。炭化物、黄褐色土の粒子を多量に含有する。)

第2層 黒色土である。(1層に色調は近いが、炭化物の含有が多量である。)

第3層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。炭化物、黄褐色土の粒子を含有する。)

第4層 茶褐色土である。(明るい色調をもつ。炭化物を含有する。)

第5層 茶褐色土である。(4層より色調は明るい。炭化物を含有する。)

遺物の出土は多い。1層中からは口縁から胴上半の大型破片と底部が検出された。出土土器から土壤の時期は諸磯b式期である。

62号土壤 (第38図)

D-34グリッドに位置する。61号とは隣接している。形態は南北に主軸をもった楕円形である。長軸は130cm、短軸100cmを測る。深さは20cmである。底径は小さい。底面は平坦であった。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性がなく軟弱。炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層より明るい色調。黄褐色土の小さいブロック、炭化物を含有。)

第3層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。細かい炭化物を含有する。)

第4層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。黄褐色土の細かいブロックを含有。)

遺物は覆土の1層から検出され、図化した4個体が折り重なった状態で出土した。出土土器から土壤の時期は諸磯b式期である。

63号土壤 (第38図)

D-34グリッドに位置する。形態は楕円形である。長軸は170cm、短軸は140cmを測る。深さは確認面から東側で50cm、西側で60cmを測り、傾斜する底面であった。底径は小さく傾斜をもった壁である。覆土は8層に分けられた。

第1層 黒褐色土である。(色調は暗い。軟質である。炭化物の含有が多い。)

第2層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。大粒の炭化物と黄褐色土ブロック含有。)

第3層 暗褐色土である。(色調は2層に近似する。黄褐色土ブロックの含有が多い。)

第4層 暗褐色土である。(色調は2層より明るい。粘性を備える。大粒の炭化物を含有する。)

第5層 暗褐色土である。(4層より色調は明るい。粘性に富んでいる。炭化物の含有量が多い。)

第6層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。小砂利を多く含有。炭化物も若干量含有。)

第7層 黄褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。若干量の炭化物、小砂利を含有。)

第8層 黄褐色土である。(色調は明るい。粘性に富む。)

覆土は壁に沿った流入が観察され自然堆積である。遺物は7、8層を除いた土層から重なった状態で多量に検出され、土器は大型破片が多い。石器の出土量も豊富である。出土土器から土壤の時期は諸磯b式期である。

64号土壤 (第38図)

D-34グリッドで検出された。63号土壤とは重複する。南側は調査区に入る。形態は東西方向に主軸をもった楕円形と思われる。長軸は110cmを測る。深さは確認面から東側で30cmである。覆土

は第9～13層が該当し、4層に分けられる。

第9層 暗褐色土である。(黒味が強い。粘性を備える。若干の黄褐色土の細かいブロック含有。)

第10層 暗褐色土である。(明るい色調である。黄褐色土のブロックを含有。)

第11層 暗褐色土である。(10層より明るい色調である。ブロックの含有が10層より増す。)

第12層 茶褐色土である。(色調は暗い。黄褐色土のブロックを若干含有する。)

第13層 茶褐色土である。(12層より色調は明るい。黄褐色土のブロック、炭化物を若干含有。)

遺物の出土は少ない。土器は小破片のものが10数点の検出であった。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

65号土壤 (第38図)

D-33グリッドに位置する。形態は不整橢円形である。長軸は105cm、短軸は90cmを測る。深さは15cmである。底面は平坦である。覆土は粘性の強い暗褐色土であった。遺物は覆土内から多量に検出され、土器の大型破片を含んでいた。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

66号土壤 (第38図)

D-32・33グリッドにかけて位置する。形態は不整橢円形を呈す。長軸は150cm、短軸は110cmを測る。深さは確認面から15cmであった。底面は平坦である。遺物は土器の大型破片が出土している。土壤の時期は諸磯b式期である。

67号土壤 (第38図)

D-32・33グリッドに位置する。66号土壤の南側で検出された。形態は橢円形である。長軸は120cm、短軸は100cmを測る。深さは確認面から35cmで、底面は平坦であった。覆土は5層である。

第1層 黒色土である。(褐色味を帯びた明るい色調。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第3層 暗褐色土である。(色調は2層より暗い。黄褐色土の細かいブロックを含有する。)

第4層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性に富む。炭化物の含有が多い。)

第5層 茶褐色土である。(4層に近似する。黄褐色土のブロックを班点状に含有する。)

遺物は覆土の上層で検出された。出土量は多く大型破片を含んでいた。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

68号土壤 (第39図)

D-32グリッドに位置する。形態は隅丸の長方形である。長軸は140cm、短軸は110cmを測る。深さは確認面から15cmであり、底面は平坦である。覆土は3層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性が強い。炭化物、黄褐色土の粒子を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(色調は1層より若干明るい。炭化物の含有量が多い。)

第3層 暗褐色土である。(色調は2層に近似する。黄褐色土のブロックを含有する。)

遺物は覆土の上面で土器の大型破片と石器が出土した。出土土器から時期は諸磯b式期である。

69号土壤 (第39図)

C-32グリッドに位置する。形態は橢円形を呈す。長軸は100cm、短軸は85cmである。深さは10cmと浅い。底面は平坦である。覆土は暗褐色土であり粘性に富んで、炭化物を含有していた。遺物の

出土は多いが団化された土器を除いて小破片であった。

70号土壤 (第39図)

D-33号グリッドに位置して、古墳周構と東側で重複し、71号土壤と切り合う。更に覆土の上面には称名寺式期の配石遺構と重なっていた。形態はほぼ楕円形を呈す。長軸は200cm、短軸は150cmである。深さは50cmを測り、底面は平坦である。覆土は暗褐色土であり粘性に富んで、多くの炭化物を含有していた。遺物の出土は覆土中位から深鉢土器の完形が検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

71号土壤 (第39図)

D-33グリッドに位置する。覆土の上面では称名寺式期の配石遺構と重複し、東側では古墳周溝に切られ、更に70号土壤と北側で接して切られていた。形態は不明である。深さは東側で確認面から50cm、西側では20cmで凹凸面をもった底面を備えている。覆土は5層に分かれた。

第4層 暗褐色土である。(色調は褐色味をもった色調。締っている。炭化物を含有する。)

第5層 暗褐色土である。(色調は4層より明るい色調。締っている。炭化物の含有量は少い。)

第6層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。黄褐色土の細かいブロックを含有。)

第7層 茶褐色土である。(6層より色調が明るい。ブロックを含ます。)

第8層 暗褐色土である。(5層より明るい。粘性を備える。炭化物の含有が多い。)

遺物は土器の小破片が検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

72号土壤 (第39図)

D-33グリッドに位置する。70号土壤の西で検出された。覆土の上面には後期配石遺構が拡がっている。南側は調査区外に入る。形態は長楕円形を呈すと思われる。長軸は不明。短軸は110cmを測る。深さは確認面から20cmである。断面形はポール状である。覆土は4層に分けられる。

第9層 黒褐色土である。(色調は明るい。粘性に富んでいる。若干量の炭化物を含有する。)

第10層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。)

第11層 暗褐色土である。(色調は10層より明るい。細かい黄褐色土のブロックを含有する。)

第12層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。細かい黄褐色土ブロックを含有する。)

遺物の出土は土器の小破片が検出された。出土土器から土壤の時期は諸磯b式期である。

73号土壤 (第39図)

D-32グリッドに位置する。形態は不整楕円形である。長軸は90cm、短軸は80cmである。深さは確認面から20cmを測る。覆土は暗褐色土であった。遺物は底面に接して検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

74号土壤 (第39図)

D-32グリッドに位置する。形態はほぼ隅丸方形である。一辺は約70cmを測る。深さは確認面から10cmであった。底面は平坦であった。遺物は覆土の上面で検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

75号土壤 (第39図)

D-32グリッドに位置する。74号土壤の東側で検出された。形態は不整楕円形である。長軸は東

西方向で100cm、短軸は60cmを測る。深さは確認面から35cmである。底面は平坦であった。覆土は暗褐色土を基本としていた。遺物は土器の小破片が少数検出された。

76号土壙（第39図）

D-31グリッドに位置する。古墳周溝に南側を一部切られ欠失している。形態は橢円形と思われる。短軸の長さは100cmを測る。深さは15cmであり、底面は平坦であった。遺物は土器の大型破片と石皿が覆土の上面で検出された。土壙の時期は出土土器から諸磯b式期である。

77号土壙（第39図）

D-32グリッドに位置する。69号土壙の北側で検出された。形態は橢円形である。長軸は100cm、短軸は85cmを測る。深さは20cmを測る。底面は平坦であった。覆土は粘性の強い暗褐色土を基本とするものであった。遺物は覆土の中程から土器の大型破片が検出された。土壙の時期は諸磯b式期である。

78号土壙（第39図）

D-32グリッドに位置する。74号土壙の南側で検出された。形態はほぼ円形を呈する。径は80cmを測る。深さは確認面から10cmと浅いものである。底面は平坦である。遺物は土器の小破片が出土した。土壙の時期は諸磯b式期である。

79号土壙（第39図）

D-32グリッドに位置する。73号土壙の北側で検出された。形態はほぼ円形を呈する。径は90cmを測る。深さは確認面から20cmである。底径は小さく、断面形はポール状を呈している。覆土は暗褐色土を基本としていた。遺物は底面のはば中央部の底に接して土器の大型破片が検出された。出土土器から時期は諸磯b式期である。

80号土壙（第39図）

D-32グリッドに位置する。78号土壙の北側で検出された。形態は隅丸の長方形である。長軸は130cm、短軸は110cmを測る。深さは確認面から15cmであった。底面は平坦であった。覆土は暗い色調の茶褐色土であり、炭化物の含有量が多かった。遺物は土器片が検出された。出土土器から土壙の時期は諸磯b式期である。

81号土壙（第39図）

D-39グリッドに位置する。古墳周溝と重複している。形態は東、西方向に尖った橢円形である。長軸は90cm、短軸は55cmを測る。深さは確認面から25cmであった。覆土は6層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。（色調は明るい。粘性に富んでいる。炭化物の含有が多い。）

第2層 暗褐色土である。（1層より色調が明るい。粘性を備える。）

第3層 黄褐色土である。（暗い色調である。）

第4層 暗褐色土である。（1層より若干暗い色調である。粘性に富む。細かい黄褐色土含有。）

第5層 暗褐色土である。（1層中に黄褐色土のブロックを斑点状に含有する。）

第6層 黄褐色土である。（ブロックである。）

遺物の出土は浮線文を施した土器の小破片が出土している。土壙の時期は諸磯b式期である。

82号土壙（第39図）

E-39グリッドに位置する。81号土壌の北側で検出された。形態は隅丸の方形を呈する。一辺は約100cmを測る。深さは確認面から15cmを測る。断面形は磨鉢状を呈す。覆土は7層に分かれる。

第1層 摂乱である。

第2層 暗褐色土である。(色調は暗い。)

第3層 暗褐色土である。(2層より色調は明るい。粘性を備える。炭化物を若干量含有する。)

第4層 暗褐色土である。(3層中に黄褐色土のブロックを含有する。)

第5層 黄褐色土である。(暗い色調である。)

第6層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性に富む。細かい炭化物を若干量含有している。)

第7層 黄褐色土である。(明るい色調である。)

遺物としては浮線文を施した土器の小破片が出土した。土壌の時期は諸磈b式期である。

83号土壌 (第39図)

E-39グリッドに位置する。形態は橢円形を呈する。長軸は50cm、短軸は35cmを測る。深さは15cmである。底径は小さく円形となっている。覆土は5層に分かれる。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。軟質である。細かい炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層より若干明るい色調である。)

第3層 暗褐色土である。(1層より色調は暗い。粘性に富んでいる。炭化物を含有する。)

第4層 黄褐色土である。(暗い色調。)

第5層 黄褐色土である。(4層より明るい。粘性を備える。)

遺物の出土は浮線文を施した土器の小破片が検出された。時期は諸磈b式期である。

84号土壌 (第39図)

E-38グリッドに位置する。83号土壌の北側で検出された。形態は南が張り出す不整隅丸方形である。一辺は約80cmを測る。深さは30cmで、壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦。覆土は7層。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。)

第2層 暗褐色土である。(1層より暗い色調。粘性に富む。炭化物を含有する。)

第3層 暗褐色土である。(2層より色調は暗い。炭化物の含有量が多い。)

第4層 暗褐色土である。(3層中に細かい黄褐色土のブロックを含有。)

第5層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。)

第6層 茶褐色土である。(5層中に黄褐色土の細かいブロックを班点状に含有する。)

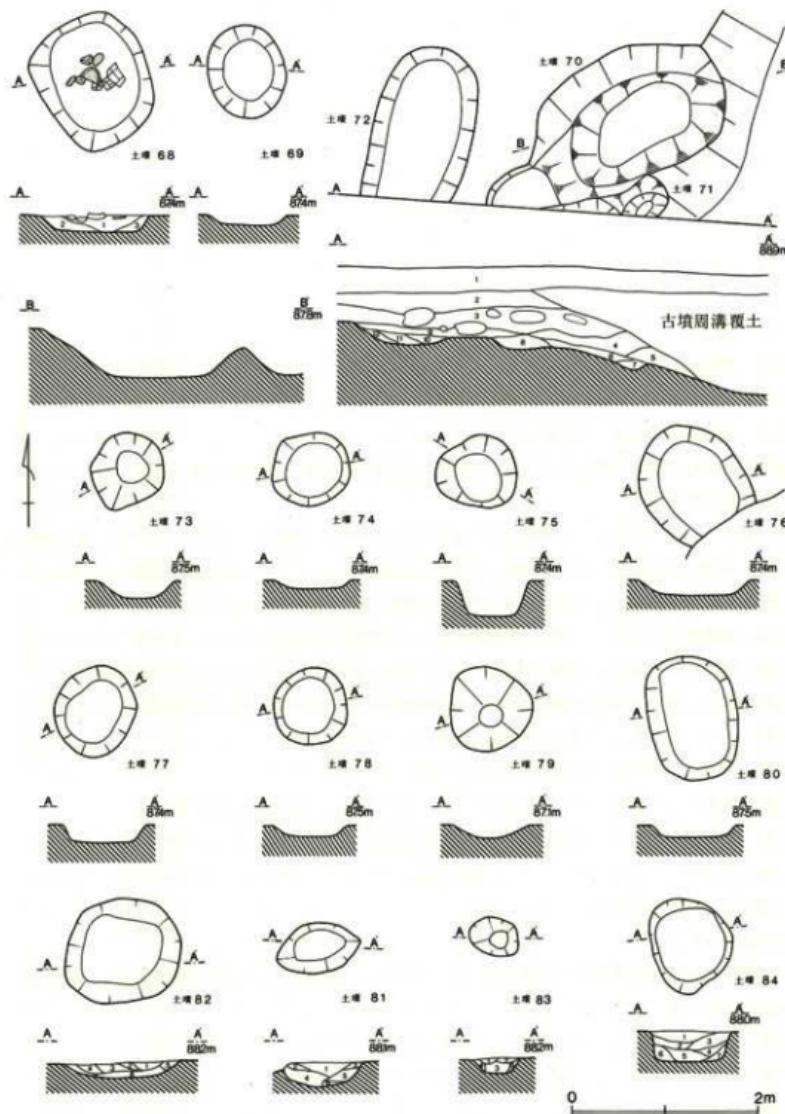
第7層 黄褐色土である。(暗い色調である。粘性に富んでいる。)

遺物は浮線文を施した土器の小破片が出土した。出土土器から土壌の時期は諸磈b式期である。

85号土壌 (第40図)

E・F-35・36グリッドに位置する。84号土壌の北側で検出された。形態は橢円形を呈している。長軸は145cm、短軸は110cmを測る。深さは確認面から20cmであり、底面は平坦となっている。覆土は暗褐色土を基本としていた。遺物の出土は、肋骨文を施した土器の小破片が検出された。土壌の時期は出土土器から諸磈a式期である。

86号土壌 (第40図)



第39図 68~84号土壠(1/60)

F-38グリッドに位置する。形態はほぼ円形である。径は120cm前後を測る。深さは確認面から25cmであった。底面は平坦である。覆土は12層に分けられた。

- 第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。軟質である。炭火物を含有する。)
- 第2層 暗褐色土である。(1層より明るい。黄褐色土のブロックを少し含有する。)
- 第3層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。炭火物の含有が多い。)
- 第4層 茶褐色土である。(明るい色調である。炭化物含有する。)
- 第5層 暗褐色土である。(3、4層の中間的な色調である。)
- 第6層 暗褐色土である。(3層より若干暗い色調である。炭化物の含有が多い。)
- 第7層 暗褐色土である。(2層中に黄褐色土のブロックを含有する。)
- 第8層 茶褐色土である。(色調は暗い。黄褐色土のブロックを含有する。)
- 第9層 茶褐色土である。(8層より色調が明るい。他は同一である。)
- 第10層 黄褐色土である。(色調は暗い。硬く締っている。)
- 第11層 黄褐色土である。(色調は10層より明るい。)
- 第12層 茶褐色土である。(8層より色調は明るい。)

遺物は土器の小破片が検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期である。

87号土壤 (第40図)

E-38グリッドに位置する。85号土壤の東側で検出された。形態はほぼ円形を呈する。径は110cmである。深さは確認面から30cmを測る。断面形は磨鉢状となっている。覆土は8層に分かれる。

- 第1層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物を含有する。)
- 第2層 茶褐色土である。(1層より色調は暗い。炭化物の含有量が多い。)
- 第3層 茶褐色土である。(2層より暗い色調である。炭化物の含有が少ない。)
- 第4層 暗褐色土である。(色調は明るい。茶褐色土のブロックを含有。炭化物も含んでいる。)
- 第5層 茶褐色土である。(明るい色調、微量の炭化物を含む。)
- 第6層 茶褐色土である。(5層より明るい色調。)
- 第7層 茶褐色土である。(明るい色調でブロック状である。炭化物を含有する。)
- 第8層 暗褐色土である。(4層より明るい色調である。粘性を備える。炭化物を含有する。)

遺物は覆土の1~3層で出土した。土器の検出は多いが殆んど小破片であった。出土土器から土壤の時期は諸磯a式期である。

88号土壤 (第40図)

E-38グリッドに位置する。形態は梢円形を呈する。長軸は80cm、短軸は60cmである。深さは確認面から10cmと浅いものである。覆土は4層に分かれる。

- 第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。軟質である。含有物は目立たない。)
- 第2層 暗褐色土である。(1層より明るい色調。黄褐色土の細かいブロックを含む。)
- 第3層 黄褐色土である。(軟質である。暗褐色土のブロックを含有する。)
- 第4層 黄褐色土である。(基盤層である。)

遺物は一切検出されていない。土壤の時期は不明である。

89号土壤 (第40図)

E-38グリッドに位置する。88号土壤の西側で検出された。形態は長方形である。長辺は160cm、短辺は90cmであった。深さは確認面から10cmであった。底面は平坦である。覆土は2層である。

第1層 暗褐色土である。(黒味の強い色調である。軟質でボロボロしている。)

第2層 黄褐色土である。(ブロックである。)

遺物は一切検出されていない。土壤の時期は不明である。

90号土壤 (第40図)

E-38グリッドに位置する。89号土壤の南側に隣接して検出された。形態は長方形であるが東側壁が膨んで台形状を呈す。長辺は150cm、西壁は70cm、東壁は110cmを測る。深さは確認面から15~20cm前後である。覆土は5層に分かれれる。

第1層 黒色土である。(黄褐色土、茶褐色土のブロックを混在する。固く締っている。)

第2層 茶褐色土である。(黄褐色土、黑色土のブロックを混在している。)

第3層 茶褐色土である。(3層に近似する。黑色土のブロックの含有が多い。)

第4層 茶褐色土である。(3層に近似する。茶褐色土のブロックが多い。)

第5層 黄褐色土である。(暗い色調である。粘性に富んだブロックである。)

遺物は一切検出されていない。時期は不明である。

91号土壤 (第40図)

E-38グリッドに位置する。90号土壤の南で検出された。形態はほぼ円形を呈する。径は100cm前後を測る。深さは確認面から15cmである。底面は平坦である。覆土は4層に分かれれる。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。軟質だが締っている。炭化物を含有する。)

第2層 茶褐色土である。(明るい色調。黄褐色土の小さいブロックを含有。炭化物を含む。)

第3層 茶褐色土である。(2層より色調が明るい。ブロックを含有する。)

第4層 茶褐色土である。(3層に近似するが、黄褐色土のブロックの含有が少ない。)

遺物は覆土の上面で縄文を施した深鉢土器の大型破片が出土した。土壤の時期は諸磯a式期。

92号土壤 (第40図)

D-38グリッドに位置する。91号土壤の南側に位置する。形態は梢円形を呈す。長軸は110cm、短軸は90cmを測る。深さは確認面から15cmである。覆土は4層に分かれれる。

第1層 暗褐色土である。(黄褐色土のブロックを含有。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(色調が明るい。ブロックを含有する。)

第3層 黄褐色土である。(暗褐色土のブロックを含有する。)

第4層 黄褐色土である。(暗い色調。粘性を備える。)

遺物は一切検出されていない。時期は不明である。

93号土壤 (第40図)

F-36グリッドに位置する。古墳周溝と接して検出された。形態はほぼ円形である。径は100cmを測る。深さは確認面から20cmで、底面は平坦である。覆土は暗褐色土を基本としていた。遺物としては土器の小破片が出土した。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期である。

94号土壤（第40図）

E-36グリッドに位置する。93号土壤の南側で検出された。形態は円形である。径は100cmを測る。深さは確認面から18cmであった。底面は平坦である。覆土は粘性に富んだ暗褐色土であった。遺物は肋骨文、櫛歯文を施した土器の小破片が検出された。出土土器から土壤の時期は諸磯a式期である。

95号土壤（第40図）

E-36グリッドに位置する。形態は横円形を呈する。長軸は80cm、短軸は60cmを測る。深さは確認面から10cmと浅いものであった。覆土は軟質な茶褐色土であった。遺物は土器の小破片が数点出土した。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期である。

96号土壤（第40図）

E-36グリッドに位置する。95号土壤の南側で検出された。平面形態は円形を呈す。径は90cmを測る。深さは120cmで、断面形はフラスコ状となっている。覆土は10層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富んでいる。炭化物の含有が多い。)

第2層 黄褐色土である。(暗い色調である。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第3層 暗褐色土である。(1層中に黄褐色土のブロックを含有する。)

第4層 暗褐色土である。(1層より色調は暗い。軟質であるが締っている。炭化物の含有多量。)

第5層 黄褐色土である。(果粒状である。暗褐色土のブロックを含有する。)

第6層 黄褐色土である。(暗い色調である。果粒状の細かいブロックであり、締っている。)

第7層 暗褐色土である。(黒味の強い色調。軟質であるが締っている。炭化物が目立たない。)

第8層 黄褐色土である。(暗褐色土との混合土である。)

第9層 黄褐色土である。(砂質で軟質な土である。)

第10層 黄褐色土である。(色調は明るい。砂質土であり、粘性を備える黄褐色土ブロック含有。)

覆土の堆積は明瞭に自然流入として判別される。遺物の出土は少なく、浮線文を施した土器の小破片が覆土の上層で検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

97号土壤（第40図）

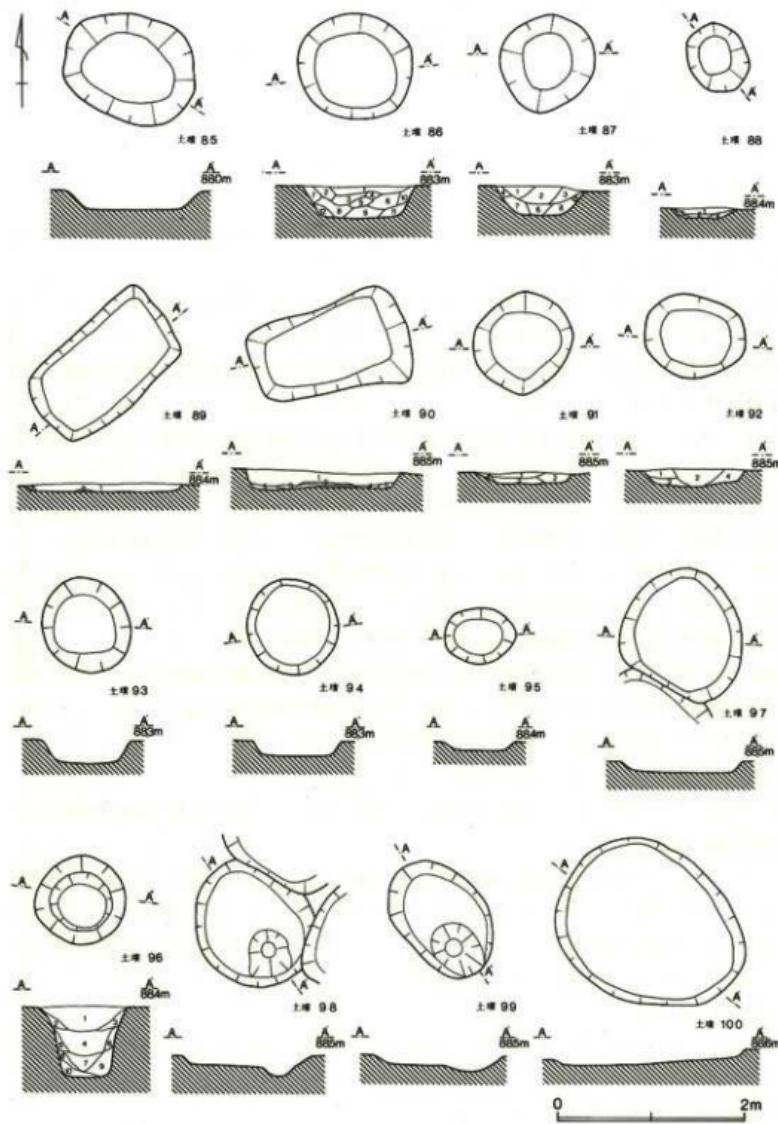
E-36グリッドに位置する。98号土壤と南側で重複して切られている。形態は不整横円形を呈す。長軸は140cm、短軸は110cmを測る。深さは15cmである。覆土は黒味の強い暗褐色土であった。出土遺物は少なく櫛歯文を施した土器の小破片が検出された。出土土器から土壤の時期は諸磯a式期である。

98号土壤（第40図）

E-36グリッドに位置する。97、121号土壤と重複している。形態は横円形で底面にはピットを附随する。長軸は140cm、短軸は120cmである。深さは15cmを測る。ピットは南側の壁に接して、深さは底面より8cmであった。覆土は暗褐色土であった。遺物は土器の小破片が検出され、殆んどが縄文を施したものであった。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

99号土壤（第40図）

D・E-36グリッドにかけて位置する。98号土壤の南側で検出された。形態は横円形を呈し、中



第40図 85~100号土壤(1/60)

にピットを附隨する。長軸は140cm、短軸は90cmである。深さは18cmであった。ピットは南壁側に接して検出され底面より10cmの深さであった。覆土は粘性の強い暗褐色土であった。遺物としては土器の小破片が出土した。土壙の時期は出土土器から諸磯a式期である。

100号土壙 (第40図)

E-36グリッドに位置する。97号土壙の西側で検出された。形態は楕円形を呈する。長軸は200cm、短軸は160cmを測る。深さは確認面からほぼ10cmである。覆土は黒味の強い暗褐色土であった。遺物としては浮線文を施した土器の小破片が検出されている。土壙の時期は諸磯b式期である。

101号土壙 (第41図)

E-36グリッドに位置する。100号土壙の北側で検出された。形態はほぼ円形を呈する。径は60cmである。深さは確認面から10cmである。覆土は2層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(明るい色調である。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層中に黄褐色土のブロックを含有する。)

遺物は1層中から浮線文を施した土器の小破片が検出された。土壙の時期は諸磯b式期である。)

102号土壙 (第41図)

E-35・36グリッドに位置する。形態は楕円形を呈する。長軸は150cm、短軸は110cmである。深さは確認面から30cmであった。底面は平坦であった。覆土は9層に分かれた。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。軟質である。黄褐色土のブロックを果粒状に含有。)

第2層 暗褐色土である。(色調は暗い。ブロックの含有はない。炭化物の含有量が多い。)

第3層 暗褐色土である。(明るい色調である。含有物は目立たない。)

第4層 暗褐色土である。(1層に近似する。ブロックの含有量が多い。)

第5層 暗褐色土である。(黒味の強い色調。炭化物の含有が多量である。)

第6層 茶褐色土である。(暗褐色土のブロックを含んでいる。炭化物も含有する。)

第7層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性を帯びる。炭化物を含有する。)

第8層 茶褐色土である。(暗い色調である。炭化物の含有が多い。)

第9層 黄褐色土である。(明るい色調である。粘性を備える。)

覆土の形成は自然堆積である。遺物は土器片が多く検出された。土壙の時期は諸磯b式期。

103号土壙 (第41図)

E-35グリッドに位置する。東側は擾乱を受ける。西側では131号土壙と重複する。形態は楕円形を呈する。長軸は200cm、短軸は150cmであった。深さは確認から25cmを測る。底面は南北方向に傾斜を備えている。覆土は粘性の強い茶褐色土であった。遺物は土器の小破片が若干量検出された。出土土器から土壙の時期は諸磯a式期である。

104号土壙 (第41図)

E-36グリッドに位置する。18号住居跡の西側で検出された。形態はほぼ円形を呈する。径は65cmを測る。断面形は磨鉢状となっている。深さは15cmである。覆土は粘性の強い暗褐色土であった。遺物は検出されていない。土壙の時期は不明である。

105号土壙 (第40図)

E-35グリッドに位置する。129号土壙と重複する。形態はほぼ円形を呈している。径は110cmを測る。深さは確認面から20cmである。底面は平坦である。覆土は暗褐色土を基本としていた。遺物は覆土の上層から検出された。土壙の時期は出土土器から諸磯b式期である。

106号土壙（第41図）

D-35グリッドに位置する。107号土壙と南側で重複し切られている。形態はほぼ円形を呈する。径は50cmである。深さは確認面から15cmを測る。覆土は明るい暗褐色土であった。遺物としては浮線文を施した土器の小破片が検出された。土壙の時期は出土土器から諸磯b式期である。

107号土壙（第41図）

D-E-35グリッドに位置する。18号住居跡、106号土壙と重複している。土器を多量に出土した土壙である。平面形態はほぼ円形を呈し、径は125cmを測る。深さは確認面から40cmであった。底面は平坦であった。覆土は8層に分かれた。

第1層 暗褐色土である。（色調は暗い。粘性を備えている。炭化物をまばらに含有する。）

第2層 黒褐色土である。（色調は黒味が強い。締っている。炭化物、焼土ブロックを多く含む。）

第3層 暗褐色土である。（1層より色調は暗い。締っている。炭化物の含有は少ない。）

第4層 暗褐色土である。（3層に近い色調。軟質である。炭化物の含有が多量である。）

第5層 暗褐色土である。（色調は1層より明るい。締っている。茶褐色土の細かいブロック含。）

第6層 暗褐色土である。（色調は5層より明るい。軟質である。1~2cm程の小礫を含有する。）

第7層 黄褐色土である。（暗褐色土のブロックを含む。）

第8層 暗褐色土である。（5層より色調が明るい。軟質である。小礫を含有する。）

覆土の状態は自然堆積の状況を示しているが、遺物の出土状態から人為的な廃棄も想定される。遺物の出土状態は1層は小破片が多量に出土したが2~6層は大型破片が折り重なって検出された。同時に石皿、石斧、大型礫も密集して出土した。最下層の8層は大型礫を含んでいた。この出土状態から土壙の性格は特殊な状況を含むものである。土壙の時期は称名寺式期である。

108号土壙（第41図）

D-35グリッドに位置する。107号土壙の南で検出された。形態は円形である。径は50cmである。深さは確認面から40cmを測る。覆土は5層に分かれた。

第1層 暗褐色土である。（色調は暗い。締っている。炭化物を含有する。）

第2層 暗褐色土である。（1層より色調は暗い。炭化物の含有が多い。）

第3層 暗褐色土である。（2層中に黄褐色土のブロックを斑点状に含有する。）

第4層 茶褐色土である。（色調は暗い。暗褐色土のブロックを含有する。）

第5層 黄褐色土である。（暗い色調である。）

遺物は一切検出されていない。時期は不明である。

109号土壙（第41図）

D-35グリッドに位置する。108号土壙の南で検出された。形態はほぼ円形を呈する。径は45cmである。深さは確認面から25cmである。覆土は4層に分かれる。

第1層 暗褐色土である。（色調は明るい。締っている。炭化物を含有する。）

第2層 暗褐色土である。(1層より暗い色調である。締っている。炭化物は含んでいない。)

第3層 黄褐色土である。(色調は暗い。締っている。暗褐色土のブロックを含有する。)

第4層 黄褐色土である。(色調は3層より暗い。締っている。ブロックは含まない。)

遺物は浮線文を施した土器片が検出された。土壤の時期は諸磯b式期である。

110号土壤 (第41図)

D-35グリッドに位置する。109号土壤の東側で検出された。形態はほぼ円形を呈している。径は150cm前後を測る。深さは確認面から50cmである。壁の傾斜が強い。底面は平坦となっている。覆土は9層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。若干の炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(褐色味の強い色調である。粘性を備える。微量の炭化物を含有する。)

第3層 暗褐色土である。2層より色調が明るい。粘性に富んでいる。炭化物の含有が多い。)

第4層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。)

第5層 黄褐色土である。(色調は明るい。粘性に富んでいる。)

第6層 茶褐色土である。(4層より色調は若干明るい。)

第7層 茶褐色土である。(色調は明るい。黄褐色土の小さいブロックを班点状に含有する。)

第8層 茶褐色土である。(7層に近似するが、黄褐色土のブロックの含有が多い。)

第9層 茶褐色土である。(8層に近似する。色調が若干明るい。)

遺物は土器片が多く出土したが、殆んどが小破片であった。出土土器から土壤の時期は諸磯b式期である。

111号土壤 (第41図)

D-35グリッドに位置する。110号土壤の南で検出された。平面形態は梢円形を呈する。長軸は東西方向で130cm、短軸は100cmを測る。深さは確認面から15cmであり、底面は平坦である。覆土は黒味の強い暗褐色土を基本としていた。遺物は底面に接して東側で2個体の大型破片が検出された。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

112号土壤 (第41図)

D-35グリッドに位置する。南側は擾乱を受けていた。形態は梢円形と思われる。現存した短軸は110cmを測る。深さは確認面から45cmである。遺物としては、爪形文、浮線文を施した土器の小破片が検出されている。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

113号土壤 (第41図)

D-35グリッドに位置する。110号土壤の東側で検出された。形態は梢円形の西側が張り出す不整形である。長軸は110cm、短軸は80cmである。底面は20cmの深さで達し、括れ部には底面から15cmの深さであるピットを伴なっている。遺物は浮線文を施した土器の小破片が出土している。土壤の時期は諸磯b式期である。

114号土壤 (第41図)

E-35グリッドに位置する。18号住居跡内で検出され、これを切っている。確認段階で明瞭に判別された。平面形態は梢円形となるが、中央部がピット状に収縮する断面形を呈している。長軸は

85cm、短軸は70cmを測る。深さは確認面から50cmであった。覆土は7層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。小さい黄褐色土のブロックを含有。炭化物を含む。)

第2層 暗褐色土である。(色調は1層より明るい。ブロックも大きくなる。)

第3層 茶褐色土である。(色調は暗い。炭化物を若干量含んでいる。)

第4層 茶褐色土である。(3層に近似するが、若干色調が暗い。)

第5層 茶褐色土である。(4層より色調が暗い。大粒の炭化物を含有する。)

第6層 黄褐色土である。(暗い色調、炭化物を含有する。)

第7層 黄褐色土である。(黄褐色土のブロックである。)

第8層 茶褐色土である。(黄褐色土のブロックを含む。炭化物の含有量が多い。)

遺物は平行沈線文を施した土器が検出された。土壙の時期は諸磯b式期である。

115号土壙 (第41図)

E-35グリッドに位置する。18号住居跡の東側で検出された。形態は橢円形を呈する。長軸は90cm、短軸は60cmである。深さは確認面から10cmであった。底面は平坦である。覆土は暗褐色土であった。遺物としては土器の小破片が出土した。文様は爪形文、浮線文を施していた。土壙の時期は諸磯b式期である。

116号土壙 (第41図)

E-35グリッドに位置する。115号土壙の北側で検出された。形態は隅丸方形である。一辺は約60cmを測る。深さは15cmである。底面は平坦であった。覆土は粘性の強い暗褐色土であった。遺物は爪形文、浮線文を施した土器の小破片が出土した。土壙の時期は出土土器から諸磯b式期である。

117号土壙 (第41図)

E-35グリッドに位置する。18号住居跡の北東壁コーナー部に接して検出された。形態はほぼ円形を呈する。径は70cmである。深さは確認面から20cmを測る。覆土は軟質な黒色土であった。遺物は一切出土しなかった。土壙の時期は不明である。

118号土壙 (第41図)

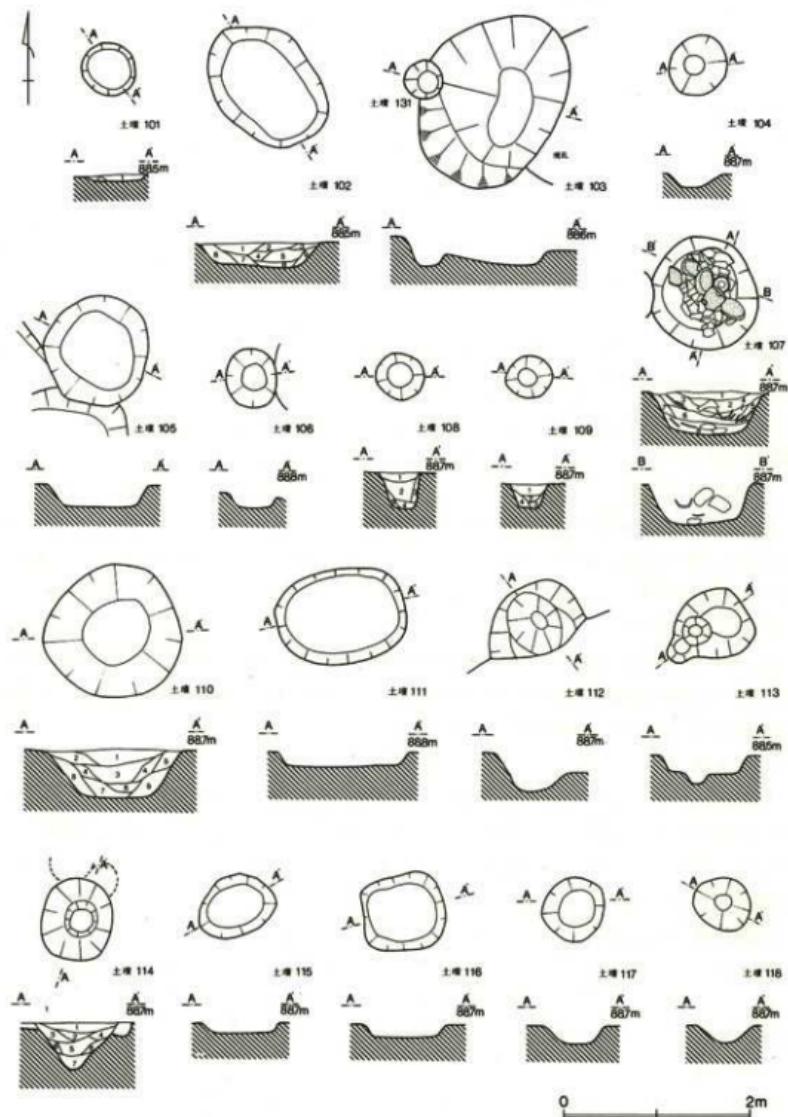
E-35グリッドに位置する。116号土壙の北側で検出された。形態は不整円形である。長軸は65cm、短軸60cmを測る。深さは確認面から25cmである。底径の小さいものである。覆土は暗褐色土であった。遺物の出土は少なく、浮線文を施した土器の小破片を検出した。土壙の時期は出土土器から諸磯b式期である。

119号土壙 (第42図)

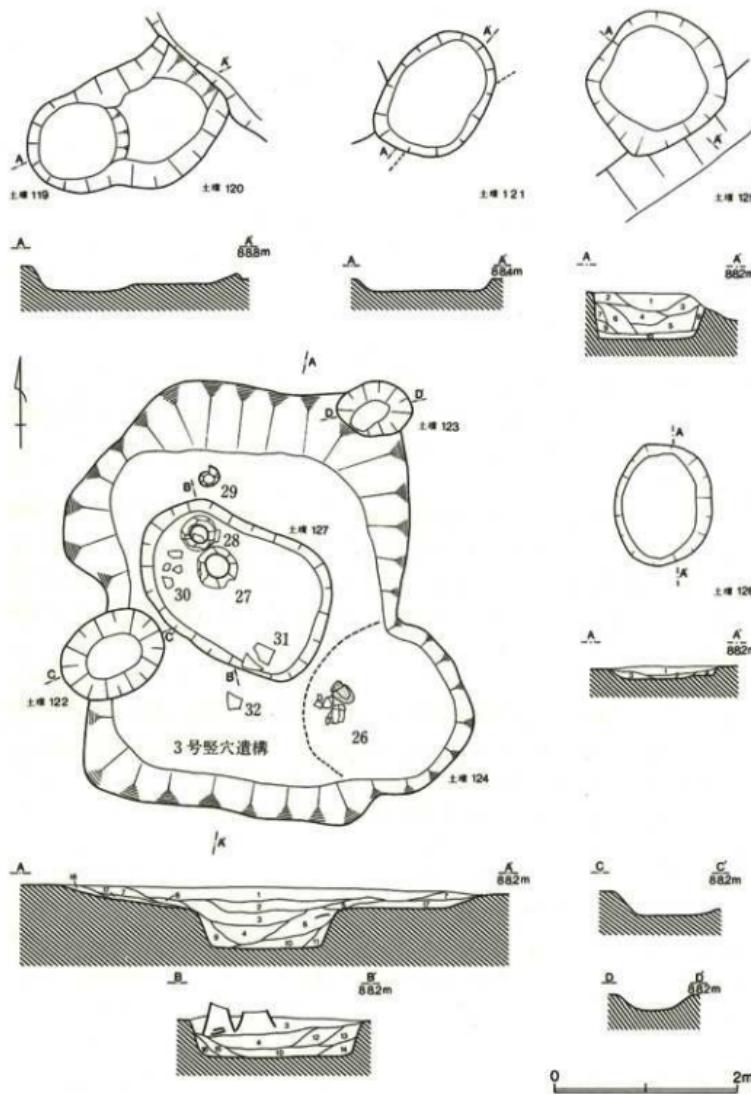
D-36グリッドに位置する。120号土壙と重複する。形態は円形であったと思われる。径は115cmである。深さは確認面から25cmを測る。底面は平坦である。覆土は黒味の強い暗褐色土であった。遺物は土器の小破片が僅かに出土した。土壙の時期は出土土器から諸磯a式期である。

120号土壙 (第42図)

D-36グリッドに位置する。東側は19号住居跡と重複し、西側では119号土壙と重複して切っている。形態は不整橢円形と思われる。長軸の長さは不明。短軸は120cmを測る。壁の傾斜は強い。深さは確認面から20cmであった。覆土は明るい暗褐色を基本としていた。遺物は浮線文を施した土器の



第41図 101~118号土壤 (1/60)



第42図 3号竖穴遺構・119~127土壤 (1/60)

小破片が出土した。土壤の時期は出土土器から諸磲 b 式期と思われる。

121号土壤 (第42図)

E-36グリッドに位置する。19号住居跡と98号土壤と切り合う。形態は楕円形を呈す。長軸は140cm、短軸は100cmである。深さは確認面から15cmである。遺物は浮線文を施した小破片の土器が出土した。土壤の時期は諸磲 b 式期と思われる。

122号土壤 (第42図)

E-32グリッドに位置する。137号土壤と隣接して検出された。形態は楕円形を呈す。長軸は115cm、短軸は80cmを測る。深さは確認面から30cmである。底面は平坦であった。覆土は暗い褐色土であった。遺物は爪形文、沈線文を施した土器の小破片が検出された。土壤の時期は諸磲 b 式期である。

123号土壤 (第42図)

E-32グリッドに位置する。形態は不整楕円形を呈する。長軸は80cm、短軸は60cmを測る。深さは確認面から15cmである。覆土は暗い色調の褐色土であった。遺物は沈線文を施した土器の小破片が出土した。土壤の時期は出土土器から諸磲 b 式期である。

124号土壤 (第42図)

E-32グリッドに位置する。3号竪穴造構と重複して、覆土の差違が明瞭に判別されず、底面も同一レベルであったために西側部分は不明となっている。形態はほぼ円形を呈すと思われる。径は南北で190cmを測る。深さは確認面から20cmである。覆土は暗い色調で粘性を備えた褐色土である。遺物は西側から纏って土器、石器が底面に接して検出された。土壤の時期は出土土器から諸磲 b 式期である。

125号土壤 (第42図)

E-32グリッドに位置する。古墳周溝と重複する。形態は不整方形である。長軸は140cmを測る壁の立ち上がりは鋭い。深さは確認面から5cmを測る。底面は平坦であった。覆土は10層である。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性が有る。小さい炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層中に軟質黄褐色土のブロックを含有する。)

第3層 暗褐色土である。(1、2層より色調が明るい。炭化物を含有する。)

第4層 暗褐色土である。(色調は3層より明るい。粘性に富む。炭化物は大粒のものを含有。)

第5層 暗褐色土である。(色調は1層より暗い。粘性に富む。炭化物は大粒で大量に含有する。)

第6層 暗褐色土である。(5層より黒味が強い。炭化物の含有は少ない。)

第7層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。黄褐色土のブロックを含有する。)

第8層 黄褐色土である。(暗い色調である。粘性を備える。若干量の炭化物を含有する。)

第9層 黄褐色土である。(暗い色調である。粘性に富む。暗褐色土のブロックを含有する。)

第10層 黄褐色土である。(色調は暗い。粘性の引いた黄褐色土のブロックと炭化物を含有する。)

遺物は覆土の上位から多量に検出された。土器は大型破片が多い。土壤の時期は出土土器から諸磲 b 式期である。

126号土壤 (第42図)

E-32グリッドに位置する。135号土壌の東側に隣接して検出された。形態は橢円形を呈する。長軸は南北方向で140cm、短軸は100cmを測る。深さは確認面から北側で15cm、南側で10cmであった。底面は平坦ではない。覆土は4層に分けられた。

- 第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。炭化物を含有する。)
第2層 暗褐色土である。(1層より明るい色調である。粘性を備える。炭化物を含有する。)
第3層 茶褐色土である。(色調は暗い。黄褐色土のブロックを若干含んでいる。)
第4層 黄褐色土である。(暗い色調である。粘性に富んでいる。)

遺物は土器の小破片が若干量出土している。土壌の時期は出土土器から諸磯b式期である。

127号土壌(第42図)

E-37グリッドに位置する。3号竪穴状遺構に附隨する土壌である。形態は橢円形を呈している。長軸は225cm、短軸は150cmを測る。深さは竪穴遺構の底面から40cmである。壁は垂直気味で鋭く立ち上がる。底面は平坦な面が検出された。覆土は16層に分かれた。

- 第1層 暗褐色土である。(明るい色調である。粘性を備える。軟質な黄褐色土のブロックと炭化物を若干量含有している。)
第2層 暗褐色土である。(1層より明るい色調である。黄褐色土ブロックの含有を増す。)
第3層 暗褐色土である。(2層より明るい色調。黄褐色土のブロック含有が多い。)
第4層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物の含有が多い。)
第5層 茶褐色土である。(暗い色調。粘性を備える。若干の炭化物を含有する。)
第6層 暗褐色土である。(色調は3層に近似する。黄褐色土のブロックを含んでいない。)
第7層 暗褐色土である。(固く締っている。茶褐色土のブロックを班点状に含有。炭化物含有。)
第8層 暗褐色土である。(5層より暗い色調。粘性が弱い。炭化物の含有量が5層より増す。)
第9層 茶褐色土である。(色調は暗い。固く締っている。暗褐色土のブロック。炭化物を含有。)
第10層 暗褐色土である。(8層より暗い。粘性は弱い。炭化物を含有する。)
第11層 茶褐色土である。(9層に近似するが、黄褐色土のブロックを含有する。)
第12層 暗褐色土である。(色調は4層より暗い。粘性に富む。炭化物の含有量が多い。)
第13層 暗褐色土である。(色調は22層に近似する。黄褐色土の小さきブロックを班点状に含有。)
第14層 暗褐色土である。(10層より色調が若干明るい。黄褐色土のブロックを含有する。)
第15層 茶褐色土である。(9層より色調は明るい。粘性を備える。)
第16層 茶褐色土である。(15層中に黄褐色土の小さいブロックを含有している。)
第17層 暗褐色土である。(色調は明るい。固く締る。黄褐色土のブロックを班点状に含有。)
第18層 暗褐色土である。(17層より明るい。固く締る。黄褐色土の小さいブロックを含有。)

覆土の堆積は土層状態の観察により自然堆積の状況が判別される。しかし埋設された2個体の土器は土壌内の堆積が第4層まで進行した後に置かれたことを示している。第4層より上位の土層は黄褐色土の細かいブロックを含有することで共通するものであり、遺構としては土壌の時期とは時間的に後続すると思われるが、127号土壌との関わりは直接的であり周辺の土壌を併せて特殊な性格を備えて、墓壙および祭祀的な状況を呈示するものである。

遺物の出土状態は土壇内より27、28の土器が並列して口縁を下にし倒立した状態で検出され、28の土器の中から30の波状口縁の土器が破片として出土したものであり、29は土壇の北側で底面に接して出土した。41は南側の壁周辺から検出され、8層中に含まれ、埋設土器との時間的位置付けを同一段階とする文様を示すものである。土壇の時期は出土土器から諸磯b式期である。

128号土壇（第43図）

D-38グリッドに位置する。24号住居跡内で検出され、床面精査の段階で確認された。更に土壇の東では132号土壇と重複して切っていた。形態は不整橢円形を呈す。長軸は135cm、短軸は100cmである。深さは住居跡床面から40cmを測る。覆土は明るい茶褐色土であり、炭化物を多く含有するものであった。遺物としては、胴部下半を欠失する深鉢が覆土の中位から検出され、土器破片も多く出土した。土壇の時期は諸磯b式期である。

129号土壇（第43図）

D-35グリッドに位置する。19、24号住居跡を切って検出され、東側では105号土壇と重複して検出された。形態は不整円形を呈す。径は150cm前後を測る。深さは遺構確認面から70cmであった。遺物としては覆土の下層から土器片が多く検出された。土壇の時期は出土土器から諸磯b式期である。

130号土壇（第43図）

E-35グリッドに位置する。18号住居跡内で検出され、柱穴を切って構築されていた。形態は不整円形である。長軸は東西方向で100cm、短軸は85cmである。深さは住居跡床面から50cmを測る。覆土は6層に分けられた。

第1層 茶褐色土である。(明るい色調。締っている。炭化物を微量に含有する。)

第2層 茶褐色土である。(1層より若干色調が暗い。固く締っている。炭化物を含有する。)

第3層 黄褐色土である。(色調は暗い。締っている。)

第4層 茶褐色土である。(2層より色調が暗い。粘性を若干有す。炭化物の含有が多い。)

第5層 茶褐色土である。(4層より黒味を帯びる。粘性を備える。茶褐色土、炭化物を含有。)

第6層 黄褐色土である。(茶褐色土のブロック、炭化物を含有する。)

遺物の出土は少なく、土器の小破片が殆んどである。土壇の時期は出土土器から諸磯a式期。

131号土壇（第43図）

E-35グリッドに位置する。130号土壇を切って検出された。形態は円形を呈す。径は40cmである。深さは確認面から35cmを測る。覆土は暗い色調の暗褐色土であった。遺物の出土は少ないが、土器の小破片が検出された。土壇の時期は出土土器から諸磯b式期と思われる。

132号土壇（第43図）

D-E-36グリッドにかけて位置している。24号住居跡内で検出された。128号土壇に西側を切られている。土壇内には住居跡の柱穴が検出されている。形態は不整橢円形である。長軸は約200cm、短軸は125cmであった。深さは住居跡の床面から20cmであり、床面は平坦であった。遺物は多く検出された。土壇の時期は出土土器から諸磯a式期である。

133号土壇（第43図）

E-31グリッドで検出された。形態は南北に主軸をもった不整橢円形を呈す。長軸は130cm、短軸

は9. cmである。深さは確認面から北側で35cm、南側で35cmを測り、床面は傾斜を備えていた。覆土は6層に分けられた。

- 第1層 暗褐色土である。(暗い色調である。粘性に富んでできる。黄褐色土のブロックを含有。)
- 第2層 暗褐色土である。(1層より明るい色調。粘性に富む。黄褐色土のブロックの量が多い。)
- 第3層 黄褐色土である。(粘性を備えたブロックである。)
- 第4層 暗褐色土である。(1層より色調が暗い。粘性に富んでいる。含有物が見られない。)
- 第5層 暗褐色土である。(1層に近似する色調。粘性に富む。炭化物を含有。)
- 第6層 黄褐色土である。(3層と同様のブロックである。)

遺物としては土器片が多く出土したが殆んど小破片であった。土壤の時期は出土土器から諸磈b式期である。

134号土壤 (第43図)

E-30グリッドに位置する。133号土壤の東側で検出された。形態は梢円形を呈する。長軸は150cm、短軸は115cmである。深さは北側で15cmを測る。底面は凹凸が激しい。覆土は5層である。

- 第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物を含有する。)
- 第2層 黒褐色土である。(色調は黒味が強い。炭化物の含有が多い。)
- 第3層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物を含有する。)
- 第4層 黑褐色土である。(2層より若干明るい。粘性が強い。炭化物を含有する。)
- 第5層 黑褐色土である。(4層中に黄褐色土の細かいブロックを含有する。)

135号土壤 (第43図)

E-30グリッドに位置する。形態は不整円形である。径は100cm前後を測る。深さは確認面から15cmであり、断面形はポール状を呈している。覆土は3層に分けられた。

- 第1層 黑褐色土である。(色調は暗い。固く締っている。炭化物を含有する。)
- 第2層 暗褐色土である。(黑色土をブロックを含有する。炭化物の含有量が多い。)
- 第3層 暗褐色土である。(色調は明るい。若干粘性を備える。炭化物を含有している。)

遺物は土器片を多く出土した。土壤の時期は出土土器から諸磈b式期である。

136号土壤 (第43図)

D-29・30グリッドにかけて位置する。21号住居跡とは北側で重複して切られている。形態は不整梢円形である。長軸は160cm、短軸は100cmを測る。深さは確認面から40cmである。覆土は4層に分けられた。

- 第1層 黑褐色土である。(黒味の強い色調である。黄褐色土の細かい粒子を多量に含む。)
- 第2層 黑褐色土である。(1層より黑色味が増す。粘性に富む。炭化物の含有量が多い。)
- 第3層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性に富む。黄褐色土粒子、炭化物を含有する。)
- 第4層 暗褐色土である。(色調は3層より若干明るい。)

遺物としては土器の出土量が多い。土器は大型破片を含んでいる。石器も多く検出された。土壤の時期は出土土器から諸磈b式期である。

137号土壤 (第43図)

D-30グリッドに位置する。形態は橢円形を呈する。長軸は85cm、短軸は60mmを測る。深さは確認面から20cmである。断面形態はポール状を呈す。覆土は4層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を有す。炭化物を含有する。)

第2層 茶褐色土である。(暗い色調である。微量の炭化物を含有する。)

第3層 茶褐色土である。(2層より明るい色調である。微量の炭化物を含有する。)

第4層 摂乱層である。

遺物は一切検出されていない。覆土の状態から縄文期の遺構と思われるが時期は不明である。

138号土壤 (第43図)

D-30グリッドに位置する。形態は橢円形を呈する。長軸は南北方向で9cm、短軸は75cmを測る。深さは確認面から20cmである。断面形態はポール状を呈す。覆土は3層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富んでいる。炭化物を微量に含む。)

第2層 暗褐色土である。(1層より色調は暗い。炭化物の含有量を増す。)

第3層 茶褐色土である。(暗い色調。粘性に富む。炭化物の含有は微量である。)

遺物の出土は、土器の小破片が僅かに出土した。土壤の時期は出土土器から諸磲b式期である。

139号土壤 (第43図)

D-E-30グリッドに位置する。形態は不整円形である。径は100cm前後を測る。深さは確認面から30cmであり、立ち上がりは垂直気味である。底面は平坦であった。覆土は7層に分けられた。

第1層 黄褐色土である。(粘性を備えたブロックである。)

第2層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第3層 暗褐色土である。(2層中に黄褐色土のブロックを若干含んできる。)

第4層 暗褐色土である。(3層に類似するが、ブロックの含有が多い。)

第5層 摂乱土である。

遺物としては、爪形文、浮線文を施した土器の小破片が出土した。土壤の時期は出土土器から諸磲b式期である。

140号土壤 (第43図)

D-30グリッドに位置する。135土壤の南側で検出された。形態は不整橢円形である。長軸は130cm、短軸は80cmを測る。深さは確認面から15cmを測る。底面は平坦であった。覆土は暗褐色土を基本としていた。遺物は浮線文、爪形文、浮線文を施した土器の小破片が出土した。土壤の時期は出土土器から諸磲b式期である。

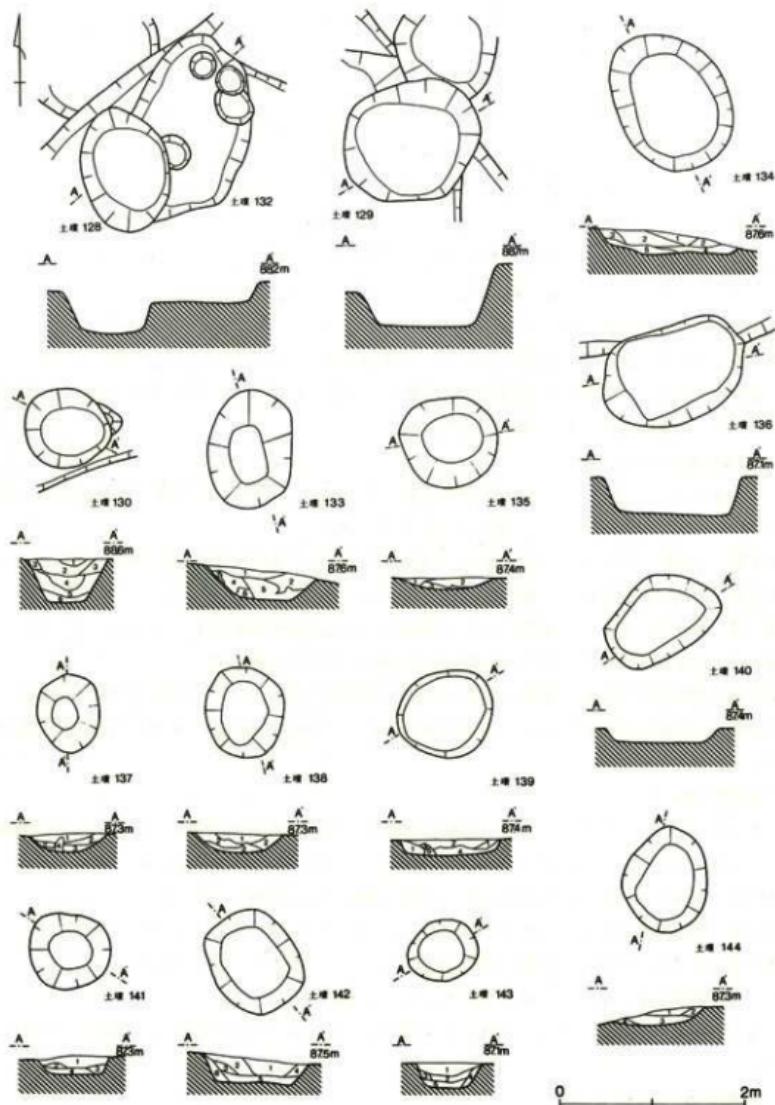
141号土壤 (第43図)

D-30グリッドに位置する。形態は隅丸方形を呈す。一辺は80cm前後である。深さは確認面から20cmであった。底面は平坦であった。覆土は4層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物を多く含有する。)

第2層 黄褐色土である。(粘性を備える。ブロックである。)

第3層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性に富む。炭化物を微量含んでいる。)



第43図 128~144号土壤 (1/60)

第4層 茶褐色土である。(色調は3層より明るい。粘性に富んでいる。炭化物を含む。)

遺物としては浮線文を施した土器の小破片が覆土の上層で出土した。土壌の時期は出土土器から諸磧b式期である。

142号土壌 (第43図)

E-31グリッドに位置する。133号土壌の南で検出された。形態は隅丸の長方形である。長軸は115cm、短軸は100cmを測る。深さは確認面から30cmであった。覆土は6層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。全体に締る。茶褐色土のブロック、炭化物を含有。)

第2層 暗褐色土である。(1層より色調が明るい。他は同一、炭化物の含有が多い。)

第3層 暗褐色土である。(色調は1層に近似、粘性をもった黄褐色土のブロックを含有する。)

第4層 黄褐色土である。(暗い色調。固く締っている。炭化物を微量含んでいる。)

第5層 暗褐色土である。(3層より明るい。ブロックの含有も多い。炭化物を含有する。)

第6層 黄褐色土である。(暗褐色土のブロックを含有する。炭化物を含む。固く締っている。)

遺物の出土は、固化された2個体の土器が覆土の上面で検出された。覆土内からは出土していない。土壌の時期は出土土器から諸磧b式期である。

143号土壌 (第43図)

D-29グリッドに位置する。21号住居跡の東で検出された。形態はほぼ円形を呈す。径は75cm前後を測る。深さは30cmであった。覆土は5層に分けられた。

第1層 茶褐色土である。(色調は暗い。暗褐色土のブロックを斑点状に含有。炭化物が目立つ。)

第2層 茶褐色土である。(1層より若干明るい色調。他は同一である。)

第3層 黄褐色土である。(硬質である。色調は暗い。炭化物を微量含有している。)

第4層 黄褐色土である。(明るい色調。粘性が有る。炭化物を含む。)

第5層 茶褐色土である。(明るい色調。部分的に黄褐色土のブロックを含有。炭化物を含む。)

遺物は1層中から検出された。土器は小破片である。土壌の時期は出土土器から諸磧b式期である。

144号土壌 (第43図)

E-29グリッドに位置する。20号住居跡の東で検出された。形態は不整橢円形である。長軸は100cm、短軸は70cmである。深さは確認面から15cmを測る。覆土は4層に分けられる。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層中に黄褐色土の小さいブロックを含有している。)

第3層 茶褐色土である。(色調は暗い。暗褐色土のブロックと炭化物を含有する。)

第4層 茶褐色土である。(3層より色調が明るい。他は同一である。)

遺物は覆土内から破片で出土したものが1個体分であった。土壌の時期は出土土器から諸磧b式期である。

145号土壌 (第44図)

E-30グリッドに位置する。23号住居跡の南側で検出された。形態は橢円形を呈する。長軸は東西方向で80cm、短軸は70cmを測る。深さは確認面から10cmである。底面は平坦である。覆土は3層。

第1層 暗褐色土である。(暗い色調である。粘性を備える。微量の炭化物を含有する。)

第2層 黄褐色土である。(粘性に富む。暗い色調である。)

第3層 暗褐色土である。(1層と共通するが、小さい黄褐色土のブロックを含有している。)

遺物は爪形文、沈線文を施した土器の小破片が出土した。土壙の時期は出土土器から諸磧b式期である。

146号土壙（第44図）

E-30グリッドに位置する。22、23住居跡に狭まれて検出された。形態は隅丸の長方形である。

長軸は80cm、短軸は70cmを測る。深さは確認面から20cmである。覆土は4層に分かれた。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(1層中に黄褐色土のブロックを含有している。)

第3層 暗褐色土である。(2層に近似するが、黄褐色土のブロックが細かい。)

第4層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。炭化物を含有する。)

遺物としては、浮線文、爪形文を施した土器の小破片が出土している。土壙の時期は出土土器から諸磧b式期である。

147号土壙（第44図）

E-31グリッドに位置する。形態は楕円形を呈す。長軸は110cm、短軸は90cmを測る。深さは確認面から40cmである。覆土は明るい色調を示す暗褐色土で、黄褐色土ブロックと1cm程の小破片を含んだ土であった。堆積は人為的な作用を加えたものと推測される。土壙内からは深鉢土器の完型が土壙の長軸方向と一致して埋設された状態で検出され、さらに大波状口縁を有す大型の深鉢の1/2程が埋設土器を覆った状態で出土している。

その他の出土土器は覆土の上層で大型の破片を含んで多量に出土している。以上の状態から喪棺に近い性格を具備し、墓壙とすべき属性を示すものである。土壙の時期は出土土器から諸磧b式期である。

148号土壙（第44図）

F-31グリッドに位置する。形態は楕円形を呈す。長軸は100cm、短軸は90cmを測る。深さは土壙中央部で確認面から15cmで、断面形はポール状を呈している。覆土は4層に分けられる。

第1層 暗褐色土である。(明るい色調である。粘性を備える。微量の炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物の含有が多い。)

第3層 黄褐色土である。(暗い色調である。暗褐色土のブロックを含有する。)

第4層 黄褐色土である。(色調は3層より明るい。粘性を備える。)

遺物は浮線文を施した土器の小破片が出土した。土壙の時期は出土土器から諸磧b式期である。

149号土壙（第44図）

F-30グリッドに位置する。東側半分を古墳周溝に切られ欠失する。形態は楕円形であったと推測される。短軸は80cmを測る。深さは確認面から10cmである。覆土は黒味の強い暗褐色土であった。

遺物は浮線文を施した土器が壙底の中央部から接した状態で出土した。土壙の時期は出土土器から諸磧b式期である。

150号土壌（第44図）

F・31グリッドに位置する。148号土壌の東で検出された。形態はほぼ円形を呈している。径は150を測る。深さは確認面から75cmであった。壙底は平坦であった。覆土は11層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。（全体に明るい色調。軟質である。炭化物を若干量含有している。）

第2層 暗褐色土である。（1層に比べ茶味を帯びる色調。軟質である。炭化物を含有する。）

第3層 茶褐色土である。（暗い色調である。粘性を有す。炭化物を含有する。）

第4層 茶褐色土である。（3層に近似するが、黄褐色土の細かいブロックを含有する。）

第5層 黄褐色土である。（粘性を備える。ブロック状である。炭化物を含有する。）

第6層 暗褐色土である。（2層より暗い色調である。粘性に富む。炭化物の含有量が多い。）

第7層 黄褐色土である。（全体に茶褐色を帯びる色調である。炭化物の含有量が多い。）

第8層 暗褐色土である。（6層より黒味のある色調。粘性に富む。炭化物の含有量が多い。）

第9層 暗褐色土である。（8層中に茶褐色土のブロックを含有している。）

第10層 暗褐色土である。（8層中に黄褐色土の細かいブロックと班点状に含有。炭化物も多い。）

第11層 黄褐色土である。（黄褐色土中に暗褐色土のブロックを班点状に含有。炭化物も多量。）

遺物としては、土器の破片が覆土内から多量に出土した。土壌の時期は出土土器から諸磈 b 式期である。

151号土壌（第44図）

E・F・31グリッドに位置する。150号土壌とは北側で隣接する。土壌の西側では古墳周溝と重複している。形態は楕円形を呈す。長軸は220cm、短軸は200cmを測る。深さは確認面から70cmであり、壁の立ち上がりは直線的である。壙底は平面である。覆土は17層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。（色調は暗い。粘性を備える。炭化物を含有する。）

第2層 暗褐色土である。（1層より褐色味が強く明るい色調。粘性に富む。炭化物を含有する。）

第3層 暗褐色土である。（1層より暗い色調である。炭化物の含有量が多い。）

第4層 暗褐色土である。（1、3層の中間的な色調である。粘性を備える。炭化物含有。）

第5層 暗褐色土である。（4層中に黄褐色土のブロックを含有する。）

第6層 暗褐色土である。（3層中に黄褐色土のブロックを若干含むものである。）

第7層 暗褐色土である。（6層より色調が明るい。）

第8層 茶褐色土である。（色調は明るい。粘性に富む。炭化物の含有量が多い。）

第9層 暗褐色土である。（3層に近い色調で明るい。炭化物の含有量が多い。）

第10層 暗褐色土である。（9層より色調は明るい。炭化物を多く含む。茶褐色土ブロック含有。）

第11層 暗褐色土である。（10層に色調は近い。黄褐色土、茶褐色土のブロックを班点状に含有。）

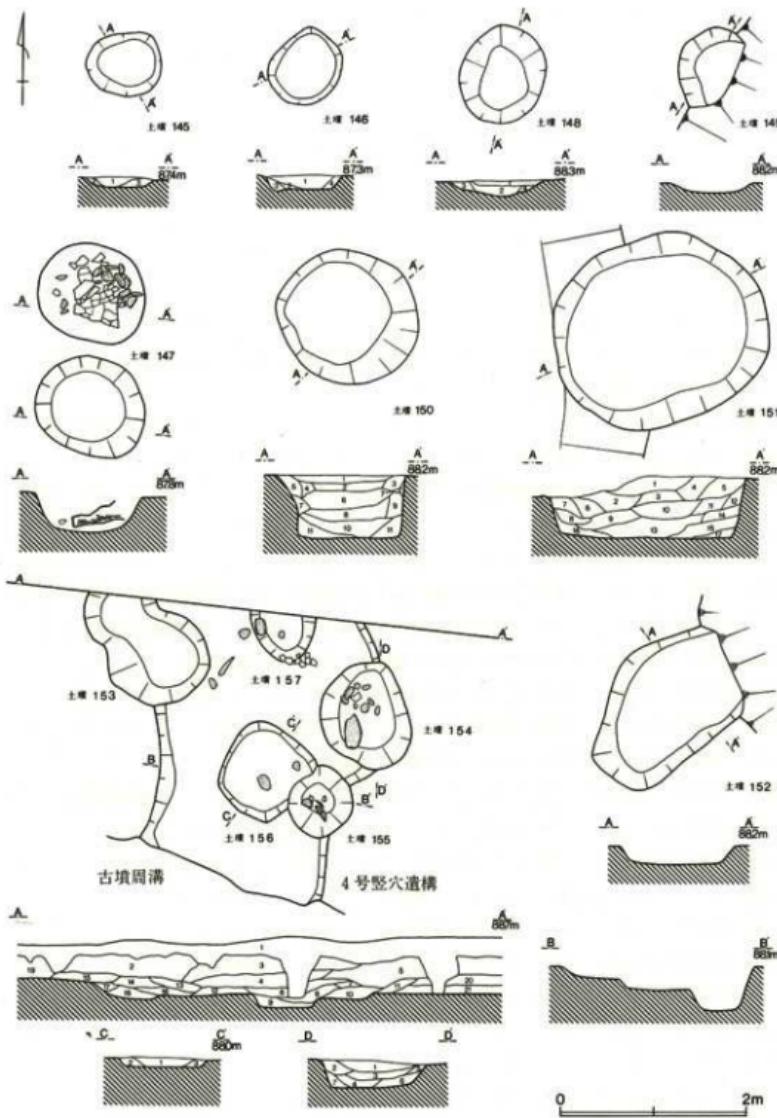
第12層 茶褐色土である。（色調は暗い。炭化物の含有が多い。黄褐色土のブロックを含有。）

第13層 茶褐色土である。（13層より暗い色調。黄褐色土のブロックを含有する。）

第14層 茶褐色土である。（色調は明るい。黄褐色土のブロックが大きい。）

第15層 黄褐色土である。（明るい色調である。軟質である。炭化物の含有量が多い。）

第17層 黄褐色土である。（15層に近似するが、茶褐色土のブロックを含有する。）



第44図 4号竖穴遗構・145~157号土壤

第17層 黄褐色土である。(15層より若干明るい。軟質である。炭化物を含有している。)

遺物は全て、13~17層と下層から集中して出土した。75の土器は東側の壁際で16層から出土したものである。土壤の時期は出土土器から諸磕b式期である。

152号土壤 (第44図)

F-30グリッドに位置する。149号土壤の北側で検出され、東半分は古墳周溝によって切られてい。形態は不整橢円形と思われる。長軸の長さは不明。短軸は120cmを測る。深さは確認面から20cmである。底面は平坦であった。覆土は粘性の強い暗褐色土であった。遺物は浮線文、爪形文を施した土器の小破片が出土した。土壤の時期は出土土器から諸磕b式期である。

153号土壤 (第44図)

F-30グリッドに位置する。北側は調査区外にはいる。形態は括れ部を中央に有した不整橢円形を呈す。長軸の長さは不明、短軸は南部分で100cmを測る。深さは確認面から20cmである。底面は平坦であった。覆土は纏めて説明する。

第1層 耕作土である。

第2層 黒色土である。(黒色土中に1層のブロックを含んでいる。)

第3層 黒色土である。(色調は黒味が多い。粘性を備える。)

第4層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。)

第5層 暗褐色土である。(明るい色調。ボロボロしている。)

第6層 暗褐色土である。(黒味を備える色調。黄褐色土のブロック、炭化物を含有する。)

第7層 暗褐色土である。(5層より明るい色調である。粘性を備える。炭化物を含有。)

第8層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第9層 茶褐色土である。(7層に近似するが、黄褐色土のブロックを含有する。)

第10層 茶褐色土である。(9層に近似するが、ブロックの含有量が多い。)

第11層 茶褐色土である。(明るい色調。炭化物の含有量が多い。)

第13層 茶褐色土である。(色調は10層に近い。黄褐色土のブロック含有。炭化物の含有が多い。)

第13層 茶褐色土である。(色調は12層より明るい。粘性を備える。炭化物の含有量が多い。)

第15層 茶褐色土である。(13層より色調は明るい。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第15層 黒色土である。(2層に近似するが、暗褐色土のブロックを含有する。)

第16層 黄褐色土である。(色調は暗い。軟質である。炭化物を含有する。)

第17層 黄褐色土である。(ブロック状の土である。締っている。炭化物を含有する。)

第18層 黄褐色土である。(色調は18層に近い。粘性を若干備える。炭化物を含有する。)

第19層 暗褐色土である。(5層に近似している。)

第20層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性に富んでいる。)

第21層 茶褐色土である。(20層より若干色調が明るい。粘性に富んでいる。)

遺物は土器片が多く出土した。土壤の時期は出土土器から諸磕b式期である。

154号土壤 (第44図)

E-30グリッドに位置する。形態は橢円形である。長軸は120cm、短軸は90cmを測る。深さは確認

面から30cmであるが、南側は25cmとなっている。覆土は7層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。炭化物の含有が多い。)

第2層 暗褐色土である。(1層中に黄褐色土のブロックを含有する。)

第3層 黄褐色土である。(色調は暗い。軟質である。暗褐色土を含む。)

第4層 黄褐色土である。(3層より締っている。炭化物を多く含有。)

第5層 黄褐色土である。(黄褐色土のブロックである。)

第6層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。炭化物を含有する。)

第7層 黄褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。炭化物を含有している。)

遺物としては、土器の破片が纏って覆土上面から出土し、大型の石皿、石斧等が底面近くで検出されている。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

155号土壤 (第44図)

E-30グリッドに位置する。156号土壤の東側を切って検出された。形態はほぼ円形を呈している。径は70cmを測る。深さは確認面から20cmであった。覆土は黒味の強い暗褐色土であり重複関係は明瞭であった。土壤内からは土器片の石斧、礫が多く検出され、全体に浮いた状態であった。土壤の時期は諸磯b式期である。

155号土壤 (第44図)

E-30グリッドに位置する。155号土壤に東側で重複して切られている。形態は方形である。一边は約80cmである。深さは確認面から10cmであった。覆土は3層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。軟質である。炭化物を含有する。)

第2層 黄褐色土である。(軟質である。炭化物を含有する。)

第3層 黄褐色土である。(2層に近いが全体に暗い色調である。)

遺物としては土器片の他に石斧、礫が出土した。土壤の時期は出土土器から諸磯b式期である。

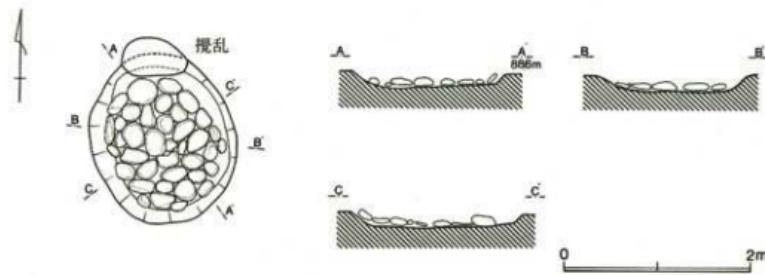
157号土壤 (第44図)

E-30グリッドに位置する。形態は橢円形と思われるが、北側は調査区外にはいる。短軸は70cmを測る。深さは確認面から25cmである。底面は平坦であった。覆土は6~9層が相当する。遺物は覆土上層からと周辺部から76の土器が出土した。土壤の時期は諸磯b式期である。

(3) 配石墓

1号配石墓 (第45図)

E-35グリッドに位置する。18号住居跡の東隣りで検出された。北側壁は擾乱を受けていた。平面形態は橢円形を呈す。規模は長軸が180cmで南北方向を示し、短軸は150cmを測る。深さは遺構確認面から20cm前後と一様であり、底面は平坦であった。配石は底面状態とほぼ一致して壁際まで検出された。石は殆んどが扁平なもので、長さは20~25cmであるが、北側中央部のものは厚味をもった円礫であった。石質は安山岩のものが多い。覆土は軟質な暗褐色土であった。遺物の出土は少なく図示した2個体の破片が覆土の上面から出土しただけである。配石には石器は含まれていなかつた。配石墓の時期は出土土器から称名寺式期と思われる。

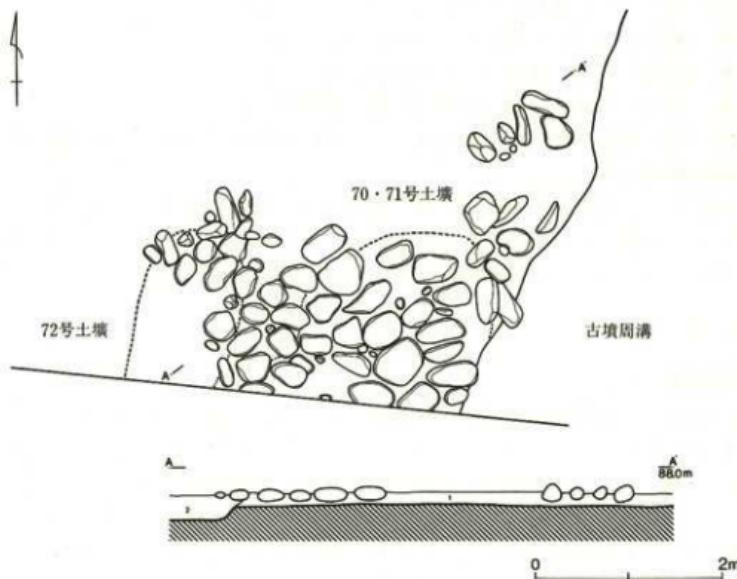


第45図 1号配石墓 (1/60)

(4) 配石跡

1号配石跡 (第46図)

D-32グリッドに位置している。諸磯期の70~72号土壤の覆土上面で検出された。配石の東側は古墳周溝に切られて欠失する。さらに南側は調査区外にはいり部分的な範囲の検出に留まっている。配石の保存状態は、搅乱を受けた部分も多く、残存した石の範囲と配置とは多少異なる形状を保有



第46図 1号配石跡 (1/60)

するものと思われる。配石の南側の中程に長さが50cm前後の整った扁平な河原石が直線的に並び、その周辺に一回り小さい河原石が間隔を密に配置されている。この部分は上面が同一レベルに保たれている。その延長の西側には張り出し状にゴツゴツした河原石が高低差をもって配されている。北側も同様な状態である。これらの配石は、暗い茶褐色土中に含まれるもので、土壤の覆土とは相違するものであり、時間的に異なる遺構と思われる。周辺からは壁と思われる立ち上がり、柱穴等は一切検出されていないが、敷石住居の可能性も残している。遺物の出土はなく、配石中からも石器、使用痕を残す砾も一切認められなかった。時期は不明な部分が多いが、後期の称名寺式期と推測される。

(市川 修)

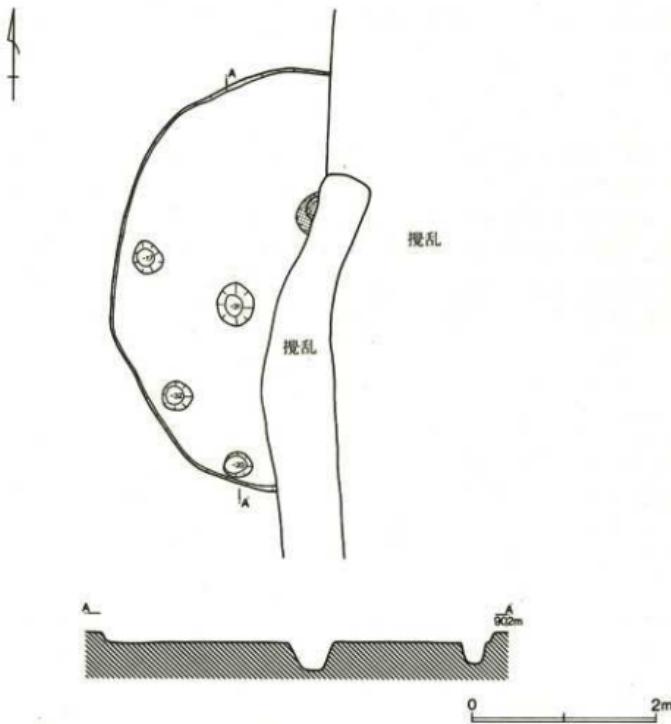
VI. 北塚屋遺跡(C区)の調査

1 遺構

(1) 住居跡

1号住居跡(第47・48図)

G・H-52グリッドに位置する。東側半分は大きく擾乱を受けて欠失していた。現存する範囲から長軸4.5m前後の円形のプランと思われる。壁高は10cm前後であった。床面は軟弱であるが、明瞭に検出され、ほぼ平坦面であった。柱穴は4本が検出され、壁際に3本、中心部から1本の配置であり、深さは17~32cmを測る。炉は北側寄りの中央部から検出され、東半分を擾乱を受けて欠失していた。炉は深鉢の口縁部を正位に埋設するものであった。炉の覆土を説明する。



第47図 1号住居跡 (1/60)

第1層 黒褐色土である。(明るい色調。焼土のブロックを多く含んでいる。)

第2層 暗褐色土である。(暗い色調である。焼土は含まず黒褐色土のブロックを斑点状に含有。)

第3層 黄褐色土である。(色調は暗い。暗褐色土のブロックと焼土および炭化物を若干含む。)

遺物としては土器の小破片が少量出土したにとどまった。石器は出土していない。

住居の時期は炉体土器から加曾利E II式期である。

2号住居跡（第49・50図）

H-56グリッドに位置する。この附近は擾乱を受けて遺構の確認面が乱れ、プランの検出は不明瞭となって炉の存在の確認によって周辺部を精査した結果判明したものであり、壁の検出はできなかった。炉の周辺からは12本の柱穴が検出された。各々の位置関係は不規則ではば壁に寄って巡るものと思われる。柱穴の深さは15cm前後を測るものであった。床面の状態は軟弱であり、良好な部分は存在していない。炉は、深鉢の口縁部を正面に埋設するものであり、西側には石囲いの側石が1個存在していた。炉の掘り方は長軸が60cmを測る方形を呈し、炉床までは15cmを測る。炉の覆土を説明する。

第1層 黒褐色土である。(焼土のブロックを多く含有し、炭化物の存在も目立っている。)

第2層 焼土である。(径が2cm前後のブロック状になるものである。大粒の炭化物を含有する。)

第3層 暗褐色土である。(焼土および黄褐色土の細かいブロックを含有している。)

第4層 黄褐色土である。(ブロック状で加熱を若干受けている。)

第5層 黄褐色土である。(第4層に近似する。)

第6層 黄褐色土である。(粘性をもち、第5層の細かいブロックを含有する。)

第7層 黄褐色土である。(粘性をもち、明るい色調である。)

遺物は炉を中心に若干量の出土であった。

住居の時期は炉体土器から加曾利E II式期と思われる。

(2) 土壙

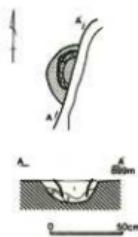
1号土壤（第51図）

G-52グリッドに位置する。平面形態は円形である。規模は径が約110cmを測り、深さは約20cmである。壁は傾斜が強い。壇底は平坦であった。覆土は4層に分かれた。

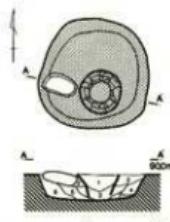
第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。赤色スコリア粒を含有している。)

第2層 暗褐色土である。(色調は1層より明るい。スコリア粒と黄褐色土の粒子を含有する。)

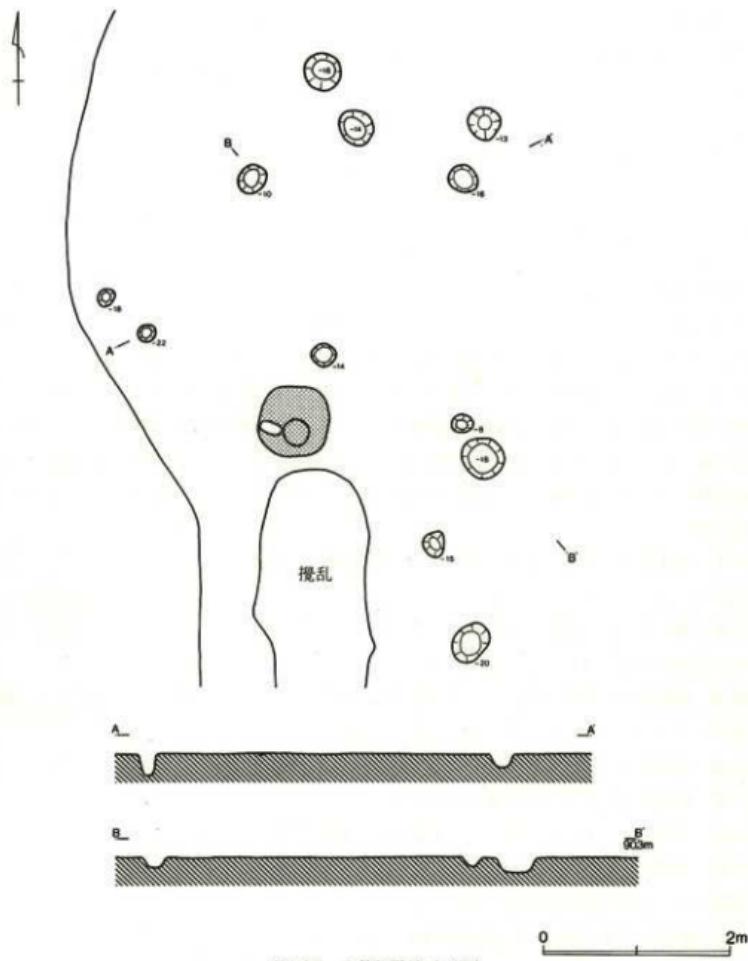
第3層 暗褐色土である。(色調は1層より暗い。粘性を備える。炭化物を若干含有する。)



第48図 炉 (1/40)



第49図 炉 (1/40)



第50図 2号住居跡 (1/60)

遺物は土器の小破片が数点出土しただけである。出土土器から土壤の時期は加曾利E II式期である。

2号土壤 (第51図)

F-53グリッドに位置する。平面形態は隅丸長方形を呈す。規模は長軸方向が約200cm、短軸は150cmを測る。深さは確認面から北側で15cm、南側では10cmを測り、傾斜する壙底を備えている。覆土は6層に分かれれる。

第1層 暗褐色土である。(色調は明るい。粘性に富む。若干の炭化物を含有している。)

第2層 暗褐色土である。(1層より色調が暗い。)

第3層 暗褐色土である。(2層中に炭化物を多く含有するため区別した。)

第4層 黄褐色土である。(色調は暗い。粘性に富んでいる。)

第5層 茶褐色土である。(色調は暗い。粘性をもつ。細かい黄褐色土のブロックを含有する。)

第6層 黄褐色土である。(4層より明るい。粘性は弱い。)

遺物は土器の小破片が数点出土した。土壤の時期は出土土器から加曾利E式期である。

3号土壤 (第51図)

F-53グリッドに位置し、2号土壤に隣接する。土壤の北半分は古墳周溝に切られ欠失する。平面形態は橢円形と思われる。規模としては短軸方向は110cmを測る。深さは10cmで壇底に到る。覆土は3層に分かれる。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。固く締っている。炭化物を若干含有する。)

第2層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性を備える。少量の炭化物を含有している。)

第3層 茶褐色土である。(2層中に粘性のある黄褐色土のブロックを含有する。)

遺物としては土器の小破片が出土した。出土土器から土壤の時期は加曾利E式期である。

4号土壤 (第51図)

F-53グリッドに位置する。平面形態はほぼ円形を呈する。径は90cm前後で、深さは50cmを測る。壁の形状は垂直に近い。壇底は平坦である。遺物としては土器の小破片が数点出土した。土壤の時期は出土土器から加曾利E式期である。

5号土壤 (第51図)

G-52グリッドに位置する。平面形態は円形を呈する。径は約100cmである。深さは25cmを測る。覆土は5層に分かれた。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物の含有が多い。)

第2層 黄褐色土である。(粘性は弱く、小さいブロックを含んでいる。)

第3層 茶褐色土である。(色調は明るい。粘性をもつ。炭化物を含有する。)

第4層 茶褐色土である。(3層より色調は暗い。粘性は強い。炭化物の含有が多い。)

第5層 黄褐色土である。(暗い色調である。粘性をもつ。若干の炭化物を含有する。)

遺物としては1層中より深鉢の完形が押し潰された状態で検出され、折り重なって扁平な河原石も含んでいた。土壤の時期は出土土器から諸磯a式期である。

6号土壤 (第51図)

G-51グリッドに位置する。平面形態は不整円形である。長径は約140cmを測る。深さは確認面から25cmである。覆土は5層に分かれた。

第1層 黒色土である。(色調は黒味が強い。粘性を備える。赤色スコリア粒を含有する。)

第2層 黒色土である。(1層より明るい色調をもつ。スコリア粒を含有する。)

第3層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性をもつ。)

第4層 暗褐色土である。(色調は3層より暗い。スコリア粒を含有する。)

第5層 黄褐色土である。(明るい色調である。粘性を備える。)

置物は土器の小破片が数点出土した。出土土器から土壤の時期は諸磯a式期である。

7号土壤（第51図）

F-50グリッドに位置する。平面形態は不整橢円形を呈す。規模としては、長軸方向が130cm、短軸は100cmを測る。深さは確認面から25cmである。覆土は3層に分かれれる。

第1層 黒色土である。（黒味の強い色調である。粘性を備える。）

第2層 黒色土である。（1層に近似するが、黄褐色土の小さい粒子を含有している。）

第3層 黒色土である。（2層中に黄褐色土のブロックを含有している。）

遺物は出土していない。覆土の観察から土壤の時期は縄文期以降と思われる。

8号土壤（第51図）

F-51グリッドに位置する。平面形態は隅丸長方形である。長軸方向は250cm、短軸は200cmを測る。深さは底面まで25cmで、南壁に接して底面から30cmほどの落ち込みをもつてゐる。覆土は9層に分けられる。

第1層 黒色土である。（色調は黒味が強い。軟質である。）

第2層 黒色土である。（1層中に黄褐色土のブロックを含有する。）

第3層 黒色土である。（1層に近似するが色調が明るい。軟質である。）

第4層 黒色土である。（2層に近いがブロックが大きく含有が多い。）

第5層 茶褐色土である。（色調は暗い。軟質である。）

第6層 茶褐色土である。（色調は5層より明るい。若干粘性を備える。）

第7層 黄褐色土である。（色調は明るい。粘性を備える。）

第8層 黄褐色土である。（7層より明るい色調である。粘性が強い。）

第9層 黄褐色土である。（粘性の強いブロックである。）

遺物は出土していない。土壤の時期は覆土の状態から新しいものと思われる。

9号土壤（第51図）

G-51グリッドに位置する。平面形態は不整橢円形である。規模は長軸方向が170cm、短軸が60cmを測る。深さは確認面から25cmを測る。遺物は出土していない。土壤の時期は新しいものと思われる。

10号土壤（第51図）

H-50グリッドに位置する。平面形態は橢円形を呈する。規模は長軸方向が約230cm、短軸は約100cmを測る。深さは確認面から30cmである。覆土は6層に分かれた。

第1層 黒色土である。（色調は黒味が強い、軟質である。黄褐色土の細かいブロックを含む。）

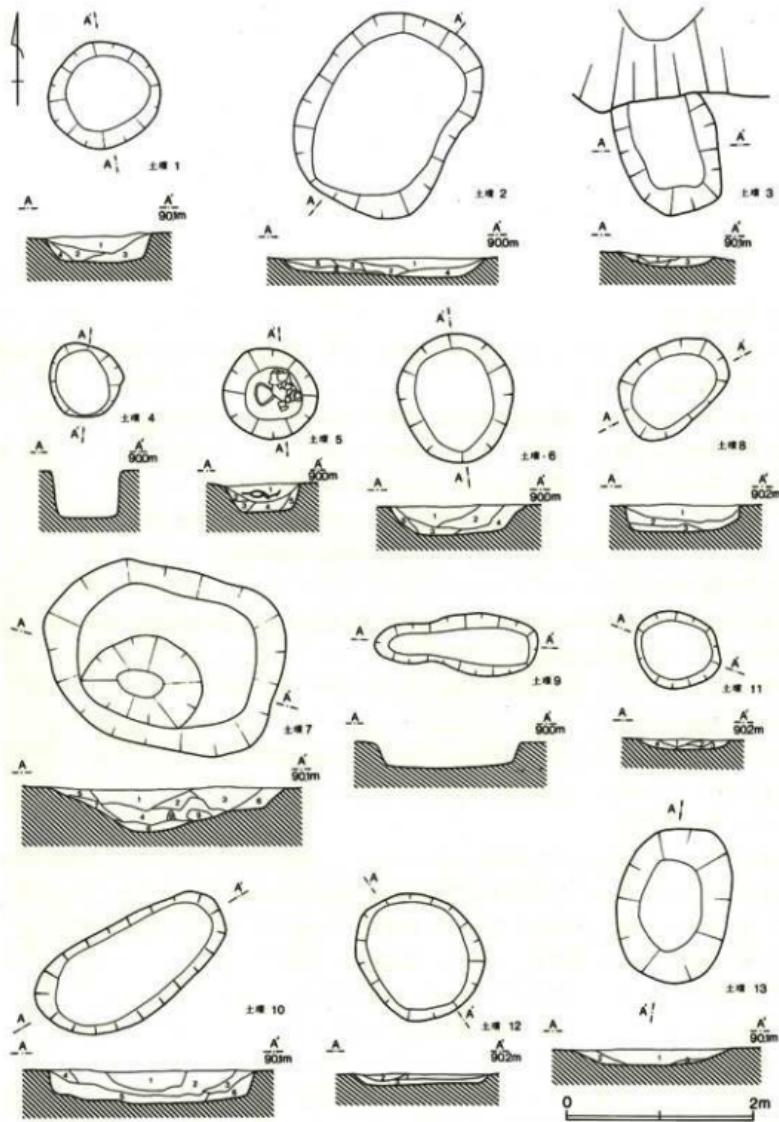
第2層 黒色土である。（1層中のブロックが大きい。）

第3層 黄褐色土である。（ブロック一層を構成する。）

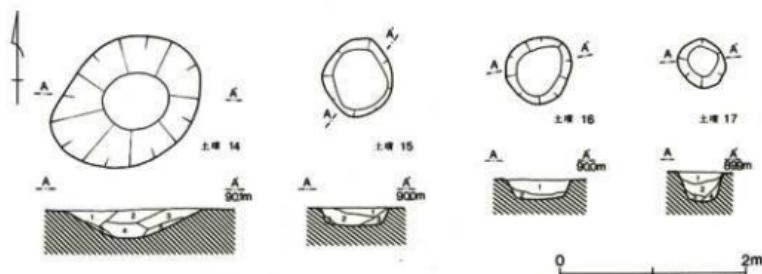
第4層 黒色土である。（色調は明るい。軟質である。細かい黄褐色土のブロックを含む。）

第6層 黑褐色土である。（5層に近似するが、粘性をもった大きなブロックを含有する。）

遺物は一切出土していない。土壤の時期は新しいものと思われる。



第51図 1～13号土壤 (1/60)



第52図 14~17号土壤 (1/60)

11号土壤 (第51図)

G-51グリッドに位置する。平面形態は不整円形を呈す。規模は径が約100cm、深さは約10cmを測る。覆土は4層に分かれれる。

第1層 暗褐色土である。(暗い色調である。粘性をもつ。炭化物を含有する。)

第2層 暗褐色土である。(2層より色調が若干明るく区別した。)

第3層 暗褐色土である。(黄褐色土の細かい粒子と炭化物を含有する。)

第4層 暗褐色土である。(3層より色調が暗い。炭化物が目立って含有される。)

遺物は土器の小破片が数点出土した。土壤の時期は諸磯a式期である。

12号土壤 (第51図)

H-51グリッドに位置する。平面形態はほぼ円形を呈する。径は約130cmを測る。深さは10cm前後と浅くなっている。覆土は3層に分けられた。

第1層 黒色土である。(色調は明るい。固く締っている。)

第2層 黄褐色土である。(ブロックである。)

第3層 黒色土である。(1層中に黄褐色のブロックを含有する。)

遺物は出土していない。土壤の時期は新しいものと思われる。

13号土壤 (第51図)

H-51グリッドに位置する。平面形態は椭円形を呈する。規模は長軸方向が約160cm、短軸が110cmを測る。深さは確認面から15cmで底面に至る。覆土は3層に分かれた。

第1層 黒色土である。(色調は黒味が強い。軟質である。黄褐色土のブロックを若干含有する。)

第2層 黑色土である。(粘性をもったブロックで構成する。)

第3層 黄褐色土である。(明るい色調である。粘性を備える。)

遺物は出土していない。土壤の時期は新しいものと思われる。

14号土壤 (第52図)

F-51グリッドに位置する。平面形態は不整椭円形である。規模は長軸方向が約170cm、短軸は約120cmを測る。断面形は磨鉢状を呈して、深さは約25cmである。覆土は5層に分けられた。

第1層 黒色土である。(色調は明るい。軟質である。黄褐色土の細かいブロックを含有する。)

第2層 黒色土である。(1層に近似するが、ブロックの含有が若干量多い。)

第3層 黒色土である。(含有されるブロックが大きいため1、2層と区別される。)

第4層 黄褐色土である。(粘性を備えるブロックで構成される。)

第5層 黄褐色土である。(明るい色調。粘性を備える。)

遺物は出土していない。時期は新しいと思われる。

15号土壤 (第52図)

G-51グリッドに位置する。平面形態は不整円形を呈す。規模は径が約80cm、深さは20cmを測る。

壁の傾斜は強く、壇底は平坦である。覆土は3層に分けられた。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性に富む。炭化物の含有が多い。)

第2層 暗褐色土である。(色調は1層より明るい。炭化物の含有量が多い。)

第3層 茶褐色土である。(色調は暗い。若干量の炭化物を含有する。)

遺物としては土器の小破片が数点出土した。土壤の時期は出土器から諸磯a式期である。

16号土壤 (第52図)

G-52グリッドに位置する。平面形態は不整円形を呈す。径は約60cm、深さは約20cmを測る。覆土は2層に分けられた。

第1層 黒色土である。(色調は黒味が強い。固く締っている。黄褐色土の粒子を含有する。)

第2層 黄褐色土である。(ブロックで構成される。)

遺物は出土していない。土壤の時期は新しいものと思われる。

17号土壤 (第52図)

G-52グリッドに位置する。平面形態は円形を呈する。径は約50cmを測る。深さは確認面から30cmを測る。覆土は4層に分かれる。

第1層 暗褐色土である。(色調は暗い。粘性が強い。炭化物を含有している。)

第2層 暗褐色土である。(1層より色調が明るい。粘性に富む。炭化物の含有が多い。)

第3層 黄褐色土である。(暗い色調である。若干軟質である。)

第4層 黄褐色土である。(3層より明るい色調である。)

遺物は第1層中より土器の小破片が出土した。土壤の時期は出土土器により諸磯a式期である。

(市川 修)

埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第25集
一般国道140号(寄居町・花園村工区)
埋蔵文化財発掘調査報告 III

塚屋・北塚屋

(本文編)

昭和58年3月19日 印刷
昭和58年3月31日 発行

発行 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
印刷 新日本印刷株式会社